

# 2023年度第2四半期 決算説明会資料

― 2023年11月13日開催 ―

京王電鉄株式会社

- I. 中期経営計画の進捗状況**
- II. 2023年度第2四半期実績**
- III. 2023年度通期の業績予想**
- IV. 参考資料**

# 業績サマリ

## 2023年度第2四半期実績

- ホテル業が好調に推移するなど、すべてのセグメントで対前年増収となり、営業収益は1,840億円
- すべてのセグメントで前年と比べて改善し、営業利益は239億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は172億円
- 対前回予想では、営業収益は運輸業、流通業、レジャー・サービス業で想定を上回り、37億円の増収、営業利益はすべてのセグメントで想定を上回り54億円の増益

## 2023年度通期の業績予想

- 訪日外国人旅行客の増加や国内需要の回復により、営業収益は3,930億円（対前回予想+50億円）、営業利益は360億円（対前回予想+30億円）を見込む
- 固定資産除却損の増加などにより、親会社株主に帰属する当期純利益は252億円（前回予想と同額）を見込む
- 年間配当金は1株につき45.0円を予定

# I. 中期経営計画の進捗状況

1. 中期3カ年経営計画（2022～2024年度）
2. 鉄道事業の安全性・サービス向上
3. まちづくりへの注力
4. 事業構造改革の推進
5. 稼ぐ力の強化
6. 強固な経営基盤の整備

# 1. 中期3カ年経営計画（2022～2024年度）

## RE START

- 新しいライフスタイルを牽引する存在として、生活圏内の回遊性向上を図る
- 豊かで魅力的な「まちづくり」への主体的な関与
- 新しい移動需要の創出

## RE DEVELOPMENT ＜まちづくりへの注力＞

- ・ 生活圏内の回遊性向上により、新たな移動需要を創出
- ・ 沿線のエリアマネジメント
- ・ 駅を核とした拠点開発

## RE STRUCTURING ＜事業構造改革の推進＞

- ・ DX推進によるコスト構造改革やグループ横断的なデータ活用
- ・ 不採算領域の見極め、選択と集中
- ・ 人流やインバウンドに依存しない事業構造構築

## RE INFORCE ＜稼ぐ力の強化＞

- ・ 分譲マンション事業をはじめとする不動産販売業の強化
- ・ 出口戦略を見据えた新規資産の取得と売却
- ・ 物流事業進出やB to B領域の拡大

### 鉄道事業「日本一安全でサービスの良い鉄道」

- ・ より高度な安全・安心の追求
- ・ お客様ニーズを先取りしたサービスの提供
- ・ さらなる社会貢献を通じた地域・社会との共生
- ・ 未来を見据えた盤石な事業運営体制の構築

### 強固な経営基盤

- ・ 専門性の高い人材の育成・採用と多様性の確保
- ・ 環境への取り組み
- ・ 大規模投資期のキャッシュアウトに耐える財務基盤づくり

2030年代に本格化する大規模投資期にむけて「稼ぐ力」を取り戻すための重要な期間  
2030年代までには過去最高益を超える水準を目指す

# 1. 中期3カ年経営計画（2022～2024年度）

## 中期経営計画における重点施策

重点施策	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度以降
<b>鉄道事業の安全性 サービス向上</b>	5000系車両 1編成増備	運賃改定 鉄道乗車ポイントサービス開始 笹塚駅等ホームドア整備 5000系車両1編成増備 リアルタイム伝送機能付き防犯カメラ設置(全車両・全駅)	久我山駅 ホームドア整備	ホームドア全駅整備 井の頭線(2020年代中頃) 京王線(2030年代前半)
<b>RE DEVELOPMENT ＜まちづくりへの注力＞</b>	沿線拠点（新宿・世田谷・調布・聖蹟桜ヶ丘・橋本）のエリア価値向上に向けたまちづくりの推進 笹塚以西連続立体交差事業（～2030年度末） 新宿駅西南口地区開発計画（南街区 2028年度竣工、北街区 2040年代竣工） 外部企業との共創によるオープンイノベーション実現			
<b>RE STRUCTURING ＜事業構造改革の推進＞</b>	京王プレッソイン東銀座閉館 京王観光 個人旅行カウンター店舗縮小	京王プラザホテル新宿 セルフチェックイン導入	京王プラザホテル新宿 大規模ラウンジ新設、客室改装工事実施	バスターミナル東京八重洲 全体開業(2028年度)
<b>RE INFORCE ＜稼ぐ力の強化＞</b>	Monoful Venture Partners 1号ファンドへの出資 京王プラザホテル多摩閉館 パークアクシス東日本橋取得(賃貸) ブリアタワー聖蹟桜ヶ丘ブルーミングレジデンス竣工	京王NEOBANK提供開始 NB建設子会社化 モディア駒沢竣工	不動産ファンド組成 京王多摩境駅前ビル竣工 サンウッド浜田山竣工	(仮称)多摩市関戸四丁目計画 竣工(分譲マンション)

## 2. 鉄道事業の安全性・サービス向上

### お客様ニーズを先取りしたサービスの提供

#### ■ 鉄道乗車ポイントサービスの開始

- コロナ禍で変化・定着した新しい鉄道需要へ対応
- 小児運賃へのポイント付与率を高く設定し、子育てしやすい沿線を目指す
- 貯まったポイントは京王ポイントに交換またはPASMOにチャージ可能 ※PASMOは㈱バスモの登録商標です



※京王 NEOBANKとの連携も検討

#### ■ 座席指定列車の追加導入と運行拡大

- 「京王ライナー」のサービス拡充を図るため、2023年度に5000系車両1編成を増備予定

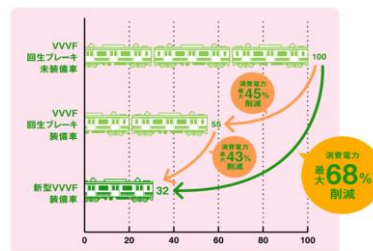


最新車両にはリクライニングシートを装備

### 未来を見据えた盤石な事業運営体制の構築

#### ■ カーボンニュートラルの実現

- 省エネ性能の高い新型VVVFインバータ制御装置への更新や駅構内の照明LED化を推進



新型VVVFインバータ制御装置の効果  
(2023年度は3編成26両で更新予定)

駅構内の照明LED化  
(2023年度は永福町駅等で実施予定)

### 運賃改定の実施

実施日	2023年10月1日
改定内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 改定率13.3%、増収率11.5%</li> <li>• 初乗り運賃 きっぷ運賃130円 → 140円</li> <li>• 通学定期運賃は、家計負担に配慮し据置</li> <li>• 相模原線に設定している加算運賃を廃止</li> </ul>

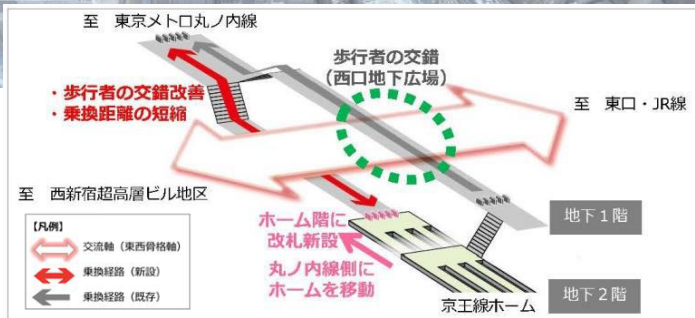
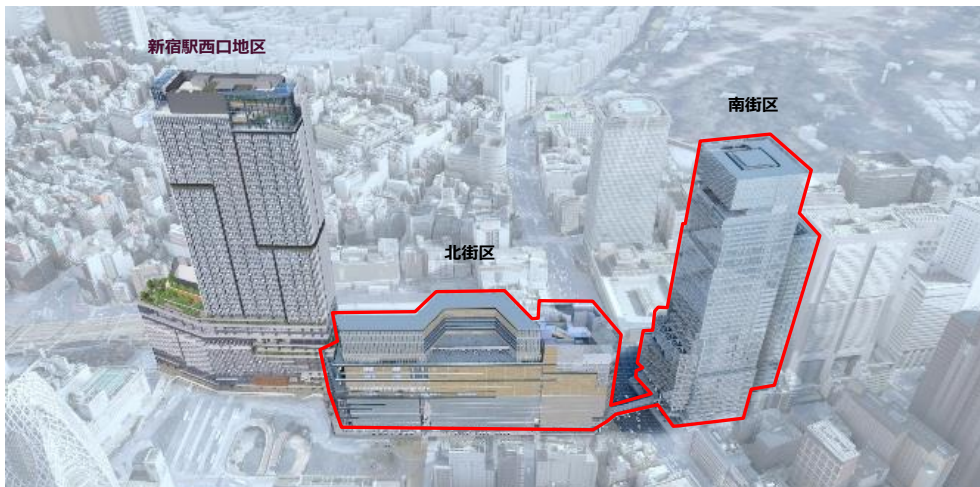
- 2024～2026年度で年間約83億円の増収効果
- 2023年度は約33億円の増収を見込む

# 3. まちづくりへの注力 RE DEVELOPMENT

## 新宿エリア

### ■新宿駅西南口地区開発計画

- 当社総事業費は3,000億円程度を想定
- 南街区は2028年度、北街区は2040年代に竣工予定
- 新宿駅改良工事を進め、新宿駅西口地下広場における歩行者交錯の改善および乗換時間の短縮等を目指す



## 聖蹟桜ヶ丘エリア

### ■多摩川河川敷周辺整備を起点としたまちづくり

- 2023年9月設立のエリアマネジメント法人等を通じたエリア価値向上や、住宅開発による生産年齢人口の流入を促進
- 2023年10月に会員制アウトドアフィットネスクラブ「RIVER PARK 聖蹟桜ヶ丘」をオープン



## 沿線の街の活性化

### ■旧京王プラザホテル多摩を複合施設（商業施設および分譲マンション）に建替え

- 商業機能の強化と新たな居住者の流入を通じて多摩センター駅周辺の活性化を目指す
- 商業施設の一部には地域貢献施設を導入し、地域コミュニティの活性化に寄与

敷地面積	約5,500㎡
工期（予定）	2023年11月～2028年度



## 4. 事業構造改革の推進 RE STRUCTURING

### オープンイノベーション

#### ■ エリア起点の事業共創プログラム「ROOFT」開始

- 2022年度は「鉄道事業の変革への挑戦」をテーマに、採択企業7社との実証実験を実施
- 2023年度は「地域価値を沿線価値へ」をコンセプトに、下北沢を舞台とした外部プレイヤーとの新たな事業やサービス創出を推進
- 本プログラムの枠組みを将来的に京王沿線全体にも展開していくことを目指す



#### ■ eスポーツ&スクール施設

#### 「KEIO eSPORTS LAB. CHOFU」オープン

- 2022年度 KEIO OPEN INNOVATION PROGRAMの採択案件として笹塚に続く2施設目をトリエ京王調布に開設
- 急速に市場拡大するeスポーツ分野を通じたα世代/Z世代との顧客接点構築、沿線の移動需要喚起を目指す
- 小学生向けプログラミングスクールやeスポーツ体験、eスポーツ大会などを開催



### 京王 NEOBANKのサービス提供開始

- 2023年9月に鉄道グループ初のフルバンキングサービスの提供を開始
- 若年層・子育て世代をターゲットに、京王ポイントを通じて沿線約750店舗との連携を実現し、暮らしの利便性向上と顧客獲得を目指す
- 鉄道乗車ポイントとの連携も検討し、更なるサービス充実と長期的な顧客接点構築を推進



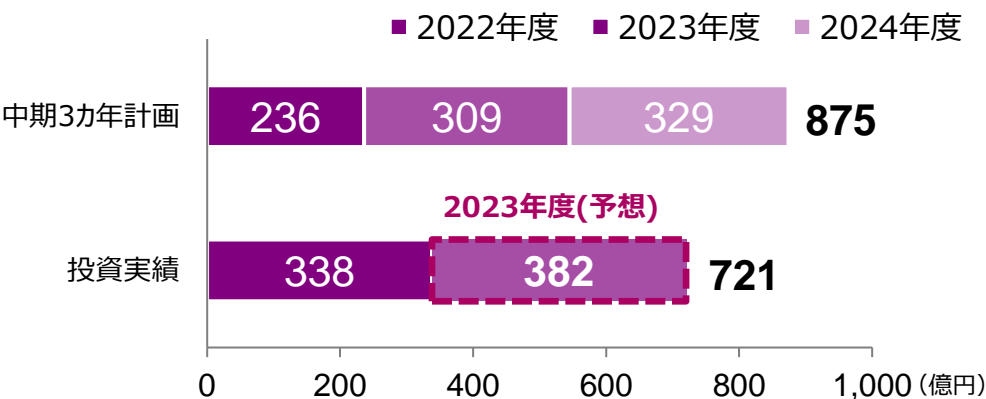
# 5. 稼ぐ力の強化 **RE INFORCE**

## 不動産業の強化

### 販売業

#### ■販売用不動産の投資進捗

- ・2023年度までの投資額は累計721億円、  
中期3カ年計画に対する進捗率は82.4%を見込む



モディア駒沢  
(2023年6月竣工)



サンウッド浜田山  
(2024年7月竣工予定)

### 賃貸業

- 多摩境駅至近に店舗・オフィス・倉庫などの複合施設「京王多摩境駅前ビル」を2023年冬開業

- 京王ストアなどが出店予定のほか、オフィス・倉庫が入居予定の(株)富澤商店の物流業務を京王運輸が支援予定



## サンウッドの株式公開買付け (TOB) 開始

- 資本業務提携を締結しているサンウッドについて、2023年11月7日から株式公開買付けを開始し、完全子会社化を目指す
- 新規共同事業案件を積極的に検討するほか、人材交流など関係性強化を図る



## 6. 強固な経営基盤の整備

### サステナビリティに関する取り組み

#### ■ マテリアリティに基づいたKPIを設定

・京王グループとして目指す姿を明確にし、進捗状況を定量的に示していくことで、持続可能な成長を促進する

#### マテリアリティ | デジタル社会への対応

KPI	目標（2023年度）	【参考】2022年度の状況
京王アプリMAU数（1か月間のアクティブユーザー数）	15万人	12万人
イノベーション・DX思考に係る研修受講率（単体・課長級以上）	100%	—

#### マテリアリティ | 活躍する人財

KPI（単体）	目標（2023年度～）	【参考】2022年度の状況
新卒女性採用比率	50%（総合職）【2024年度入社～】	33.3%（総合職）
女性管理職比率	30%【2030年度】	7.7%
男女別育児休業取得率	100%	女性100% 男性41.0%
年次有給休暇取得率	前年度水準以上	86.3%
活躍する人財 モニタリング指標（単体）	目標（2023年度）	【参考】2022年度の状況
トータルエンゲージメント	3.5点以上/5点満点	3.50
職場の心理的安全性スコア	3.5点以上/5点満点	3.46
安全・安心に関する教育・訓練	—	34.8時間/人
経営戦略実現に必要な専門人財の育成研修	—	19.3時間/人

#### マテリアリティ | 環境にやさしく

KPI	目標	【参考】2022年度の状況
CO <sub>2</sub> 排出量（Scope1、2）	【2030年度】 ・2019年度比△30%（連結） ・2013年度比△46%（鉄道） 【2050年度】 実質ゼロ	連結 2019年度比 △9.0% 鉄道 2013年度比△21.3%

## Ⅱ. 2023年度第2四半期実績

1. 2023年度第2四半期実績
2. 営業収益・営業利益の変動要因（対前年同期比較）
3. 主な事業の状況
4. セグメント別業績（対2018年度との比較）
5. 連結財政状態

## 1. 2023年度第2四半期実績

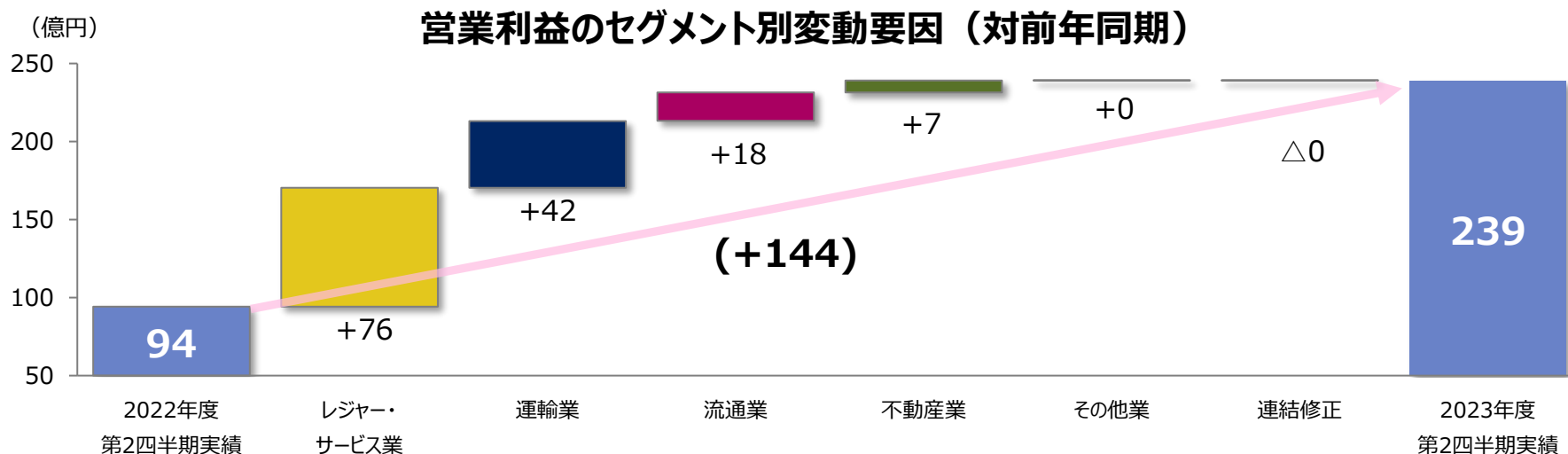
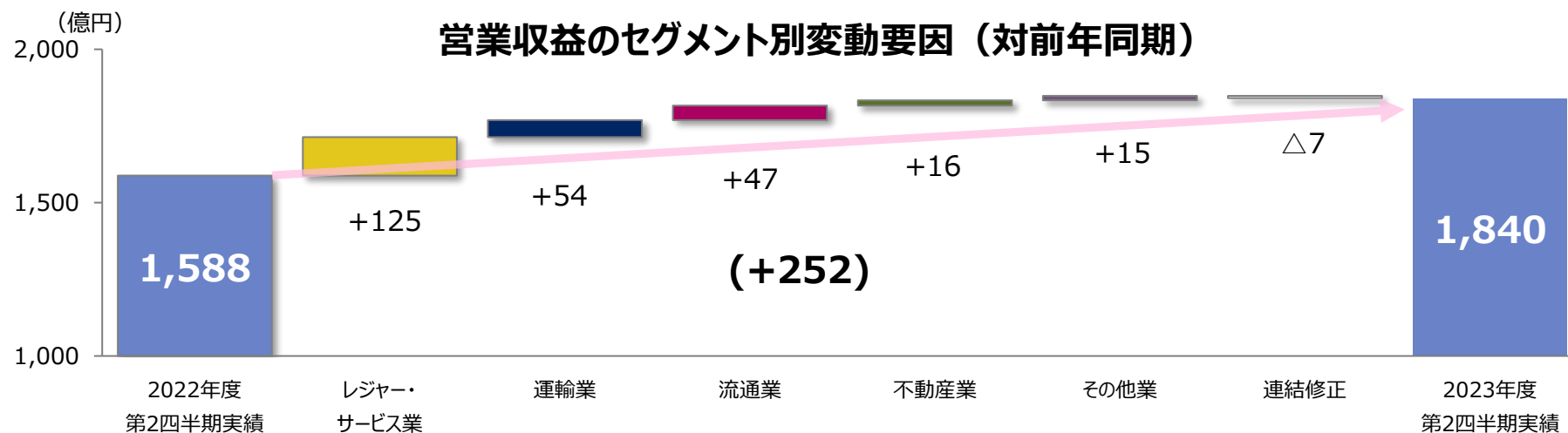
- 訪日外国人旅行客の宿泊需要取り込みや国内需要の回復により、対前年で増収増益
- 対前回予想では、営業収益は運輸業、流通業、レジャー・サービス業で想定を上回り37億円の増収、営業利益はすべてのセグメントで想定を上回り54億円の増益

	2023年度 第1四半期実績 (4~6月)	2023年度 第2四半期実績 (7~9月)	2023度 第2四半期累計 (4~9月)	前年増減	前回予想差異 (2023.8.2公表ベース)
営業収益	887億円	952億円	1,840億円	252億円	37億円
営業利益	119億円	119億円	239億円	144億円	54億円
経常利益	121億円	114億円	235億円	140億円	59億円
親会社株主に帰属 する四半期純利益	88億円	83億円	172億円	129億円	42億円
E B I T D A	188億円	194億円	383億円	146億円	51億円
減価償却費	69億円	74億円	143億円	1億円	△3億円

※EBITDAは、営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額により算出している

## 2. 営業収益・営業利益の変動要因（対前年同期比較）

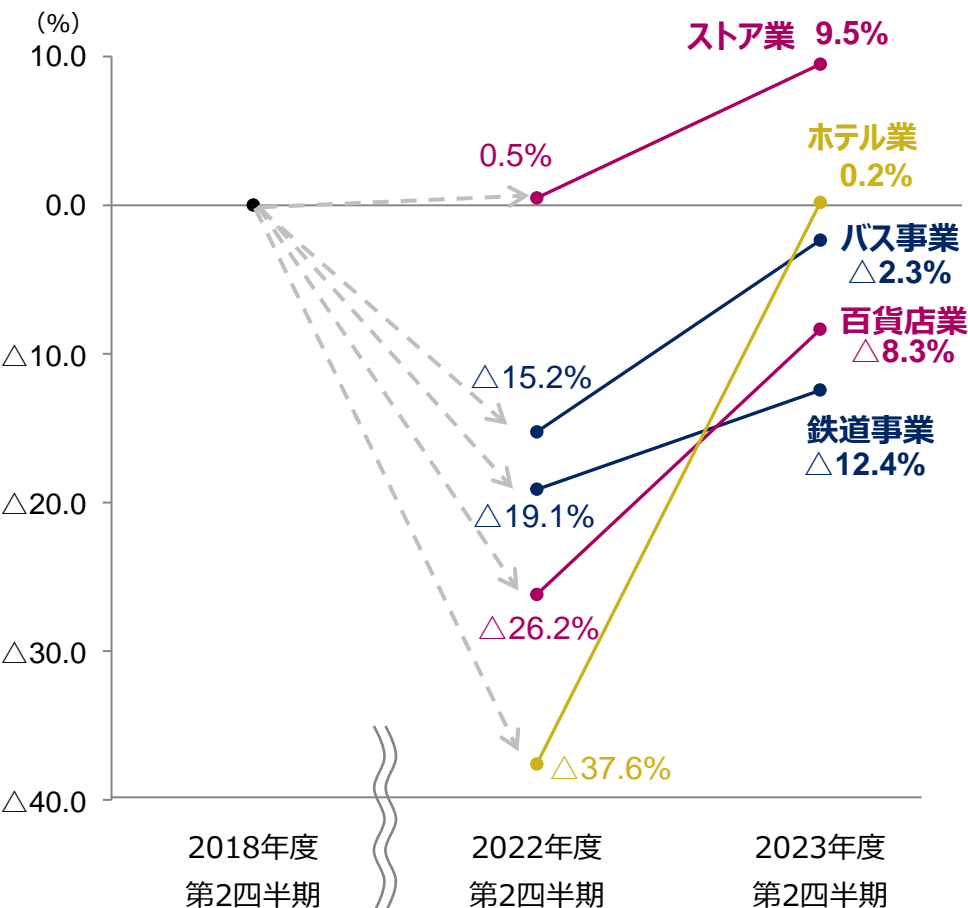
- 営業収益は、すべてのセグメントで増収となり、対前年で252億円の増収
- 営業利益は、すべてのセグメントで改善し、対前年で144億円の増益



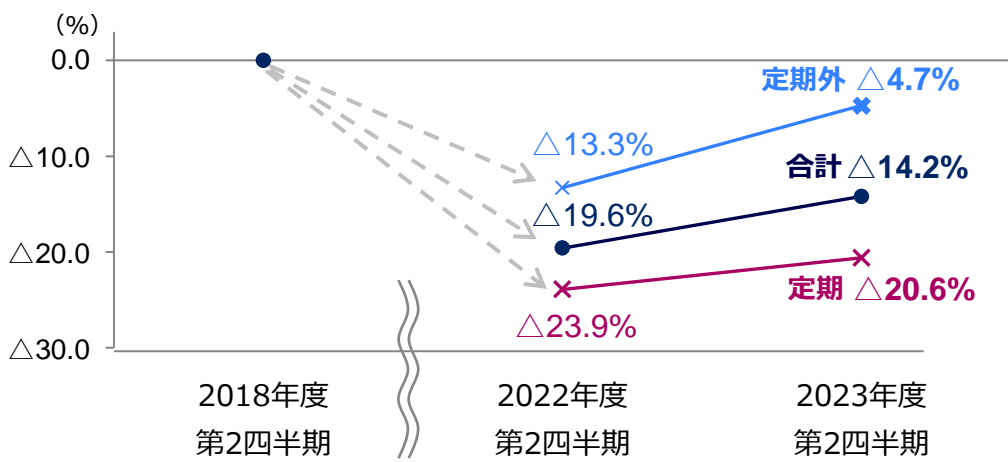
### 3. 主な事業の状況

- 鉄道事業では定期外の回復が進んだほか、バス事業においても路線バスや高速バスが回復し対前年で増収
- ホテル業では、京王プラザホテル（新宿）の平均客室単価がコロナ禍以前の水準を上回るなど対前年で大きく回復

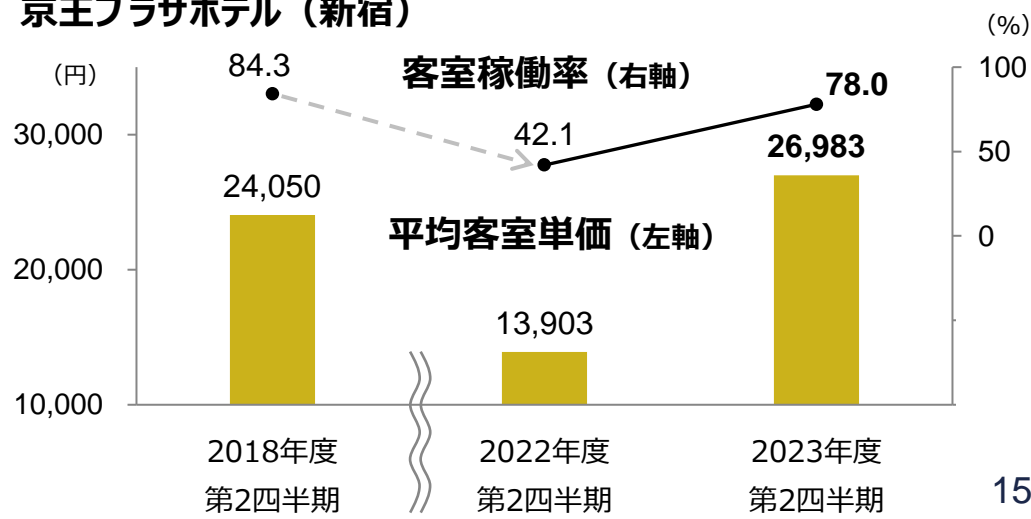
営業収益 対2018年度増減率



鉄道事業 輸送人員 対2018年度増減率



京王プラザホテル（新宿）



※百貨店業とストア業の営業収益は「収益認識に関する会計基準」等適用前

## 4. セグメント別業績（対2018年度との比較）

(単位：億円、%)

		第1四半期（4～6月）		第2四半期（7～9月）		第2四半期累計（4～9月）	
		2023年度 実績	対2018年度 増減（増減率）	2023年度 実績	対2018年度 増減（増減率）	2023年度 実績	対2018年度 増減（増減率）
営業 収益	運 輸 業	298	△ 34 ( △ 10.3 )	302	△ 30 ( △ 9.1 )	601	△ 64 ( △ 9.7 )
	流 通 業	268	△ 142 ( △ 34.7 )	260	△ 128 ( △ 33.0 )	528	△ 270 ( △ 33.9 )
	不 動 産 業	113	△ 8 ( △ 6.6 )	125	13 ( 12.1 )	239	5 ( 2.3 )
	レジャー・サービス業	159	△ 28 ( △ 15.1 )	181	△ 31 ( △ 14.7 )	341	△ 59 ( △ 14.9 )
	そ の 他 業	113	8 ( 8.2 )	154	22 ( 16.6 )	268	30 ( 12.9 )
	連 結	887	△ 201 ( △ 18.5 )	952	△ 135 ( △ 12.4 )	1,840	△ 336 ( △ 15.4 )
営業 利益	運 輸 業	46	△ 12 ( △ 20.8 )	42	△ 4 ( △ 9.0 )	88	△ 16 ( △ 15.5 )
	流 通 業	17	1 ( 7.0 )	11	2 ( 36.0 )	28	4 ( 16.7 )
	不 動 産 業	31	2 ( 10.4 )	34	9 ( 38.3 )	65	12 ( 23.4 )
	レジャー・サービス業	20	△ 1 ( △ 7.3 )	24	4 ( 19.9 )	44	2 ( 5.6 )
	そ の 他 業	3	1 ( 60.9 )	7	△ 0 ( △ 10.3 )	11	0 ( 5.8 )
	連 結	119	△ 8 ( △ 6.7 )	119	11 ( 10.5 )	239	2 ( 1.2 )

## 「収益認識に関する会計基準」等適用前 営業収益

百 貨 店 業	201	△ 20 ( △ 9.2 )	183	△ 14 ( △ 7.4 )	385	△ 35 ( △ 8.3 )
ス ト ア 業	135	11 ( 9.5 )	138	12 ( 9.5 )	273	23 ( 9.5 )



## 5. 連結財政状態

- 四半期純利益の計上などにより自己資本比率は38.2%に改善し、財務健全性を維持

	2022年度 実績	2023年度 第2四半期実績	増 減
総 資 産	9,552億円	9,875億円	323億円
負 債	6,036億円	6,105億円	68億円
純 資 産	3,515億円	3,770億円	255億円
有 利 子 負 債	4,026億円	4,093億円	67億円

## 財務・安全性指標

	2022年度 実績	2023年度 第2四半期実績
ネット有利子負債残高	3,316億円	3,300億円
自己資本比率	36.8%	38.2%

## Ⅲ. 2023年度通期の業績予想

1. 2023年度通期の業績予想
2. 営業収益・営業利益の変動要因
3. 主な事業の見通し
4. セグメント別予想
5. 投資の見通し
6. 配当の見通し

## 1. 2023年度通期の業績予想

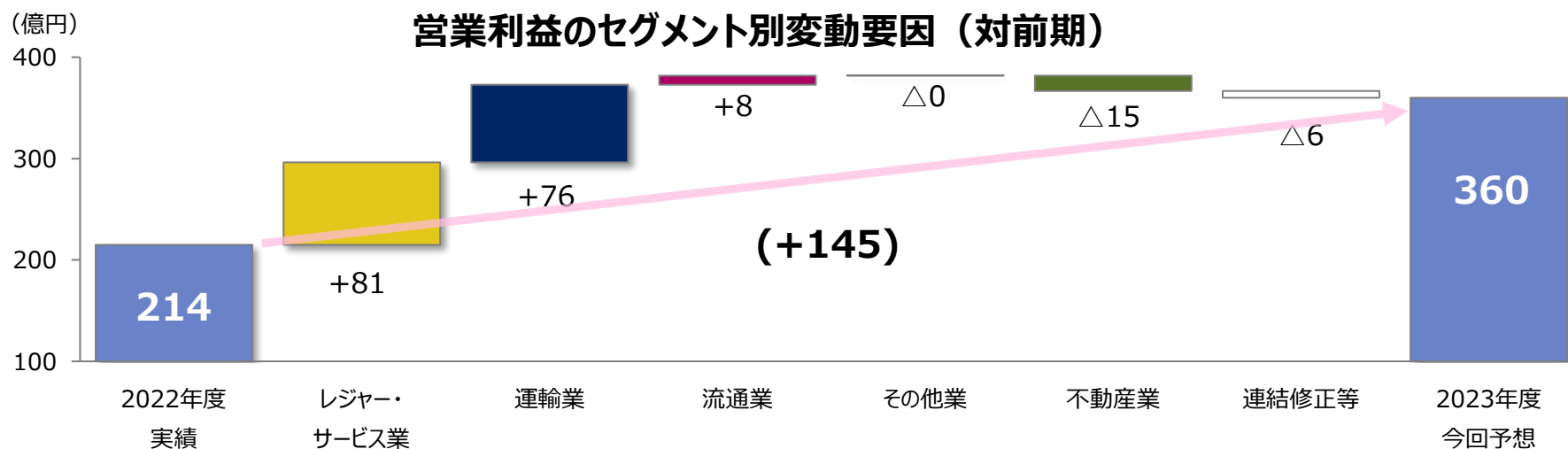
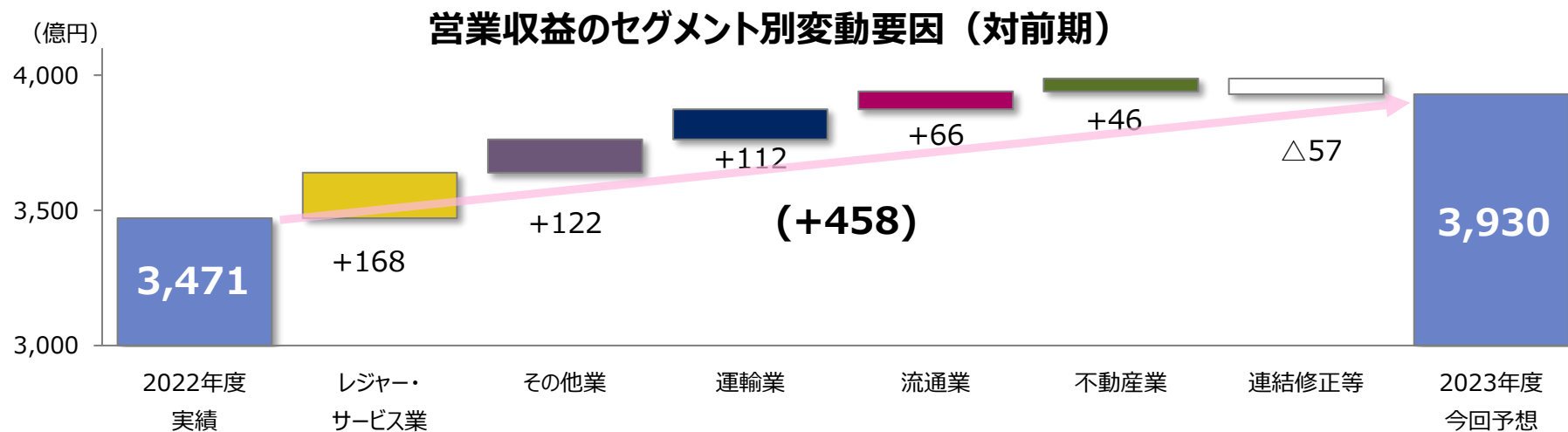
- 訪日外国人旅行客の増加や国内需要の回復により、対前回予想で営業収益は50億円の増収、営業利益は30億円の増益を見込む
- 固定資産除却損の増加などにより、親会社株主に帰属する当期純利益は前回予想と同額を見込む

	2022年度 実績	2023年度 今回予想	前年増減	2023年度 前回予想 (2023.8.2公表ベース)	予想差異
営業収益	3,471億円	3,930億円	458億円	3,880億円	50億円
営業利益	214億円	360億円	145億円	330億円	30億円
経常利益	217億円	352億円	134億円	317億円	35億円
親会社株主に帰属 する当期純利益	131億円	252億円	120億円	252億円	—
E B I T D A	506億円	669億円	163億円	644億円	25億円
減価償却費	291億円	308億円	17億円	313億円	△4億円

※EBITDAは、営業利益＋減価償却費＋のれん償却額により算出している

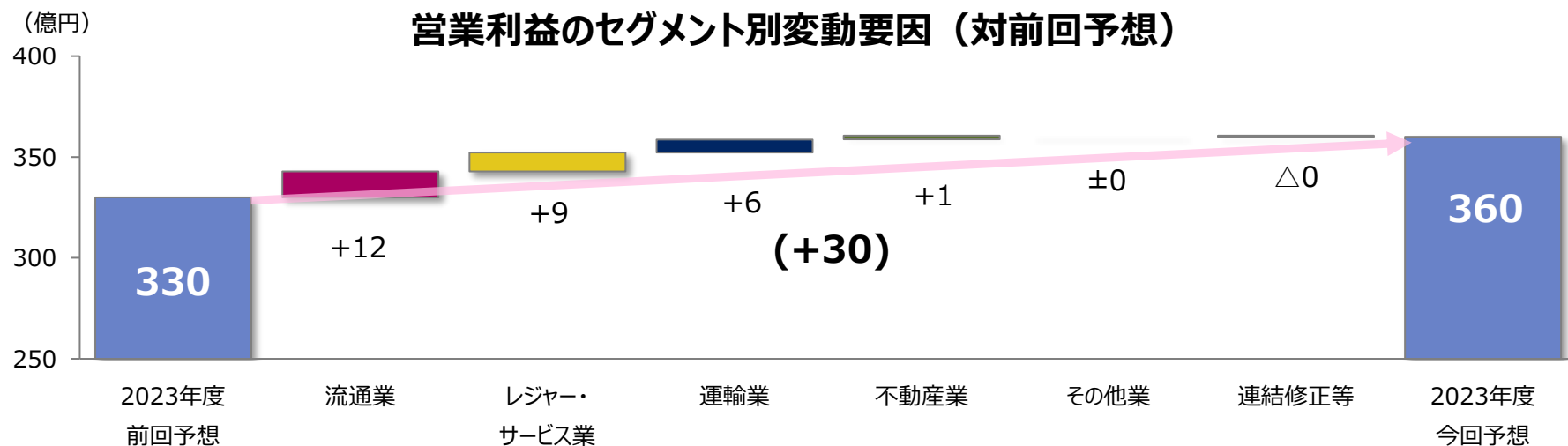
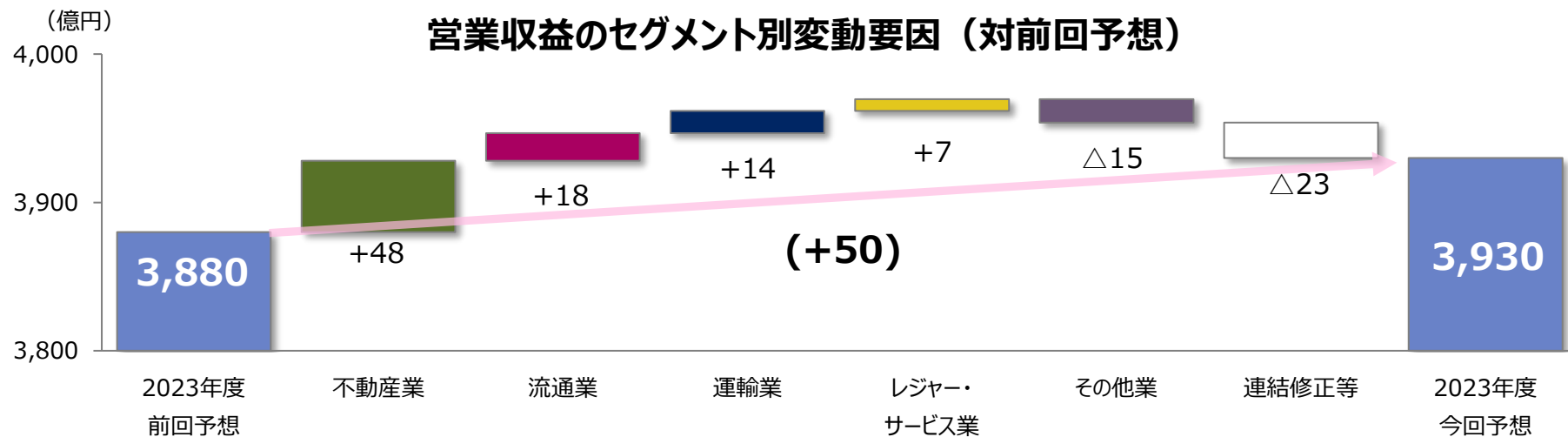
## 2. 営業収益・営業利益の変動要因（対前期比較）

- 訪日外国人旅行客の増加等によるホテル業の好調に加え、鉄道旅客運賃の改定やNB建設の連結子会社化の影響などにより、対前年で増収増益を見込む



## 2. 営業収益・営業利益の変動要因（対前回予想比較）

- 運輸業、流通業、レジャー・サービス業が想定以上に好調に推移したことなどにより、営業利益は対前回予想で30億円の増益を見込む

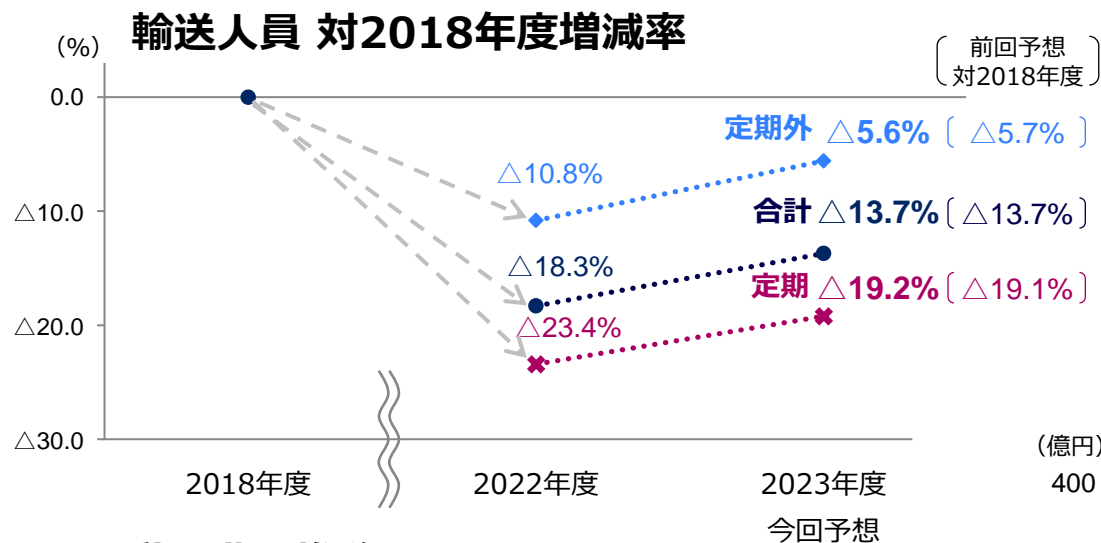


# 3. 主な事業の見通し

## 運輸業

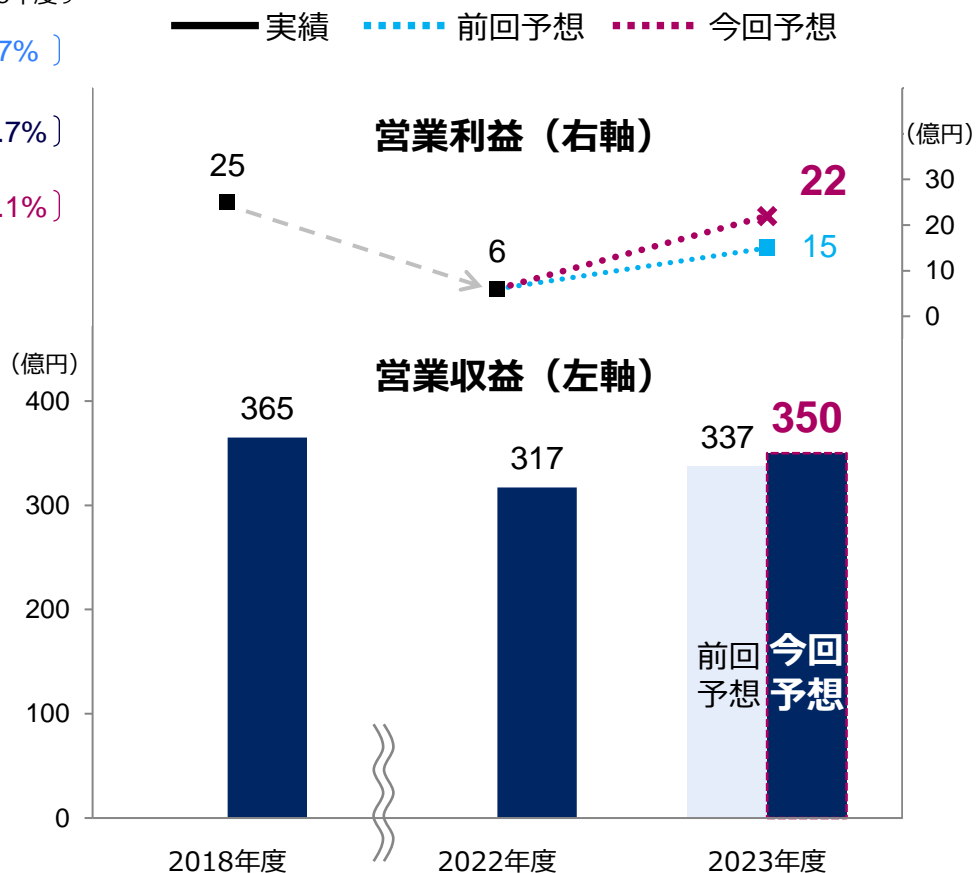
- 鉄道事業の輸送人員は前回予想並みを見込む（運賃改定の増収効果 約33億円は前回予想で反映済み）
- バス事業は、路線・高速ともに需要回復傾向にあり、前回予想比で増収増益を見込む

### 鉄道事業

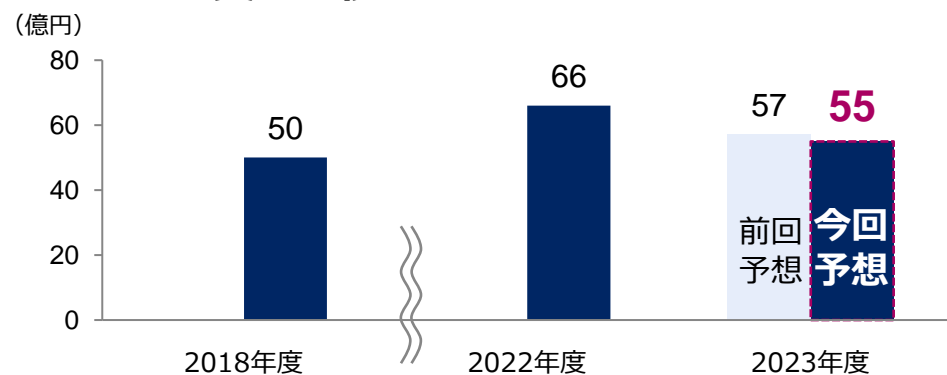


### バス事業

#### 営業収益・営業利益の推移



### 動力費の推移

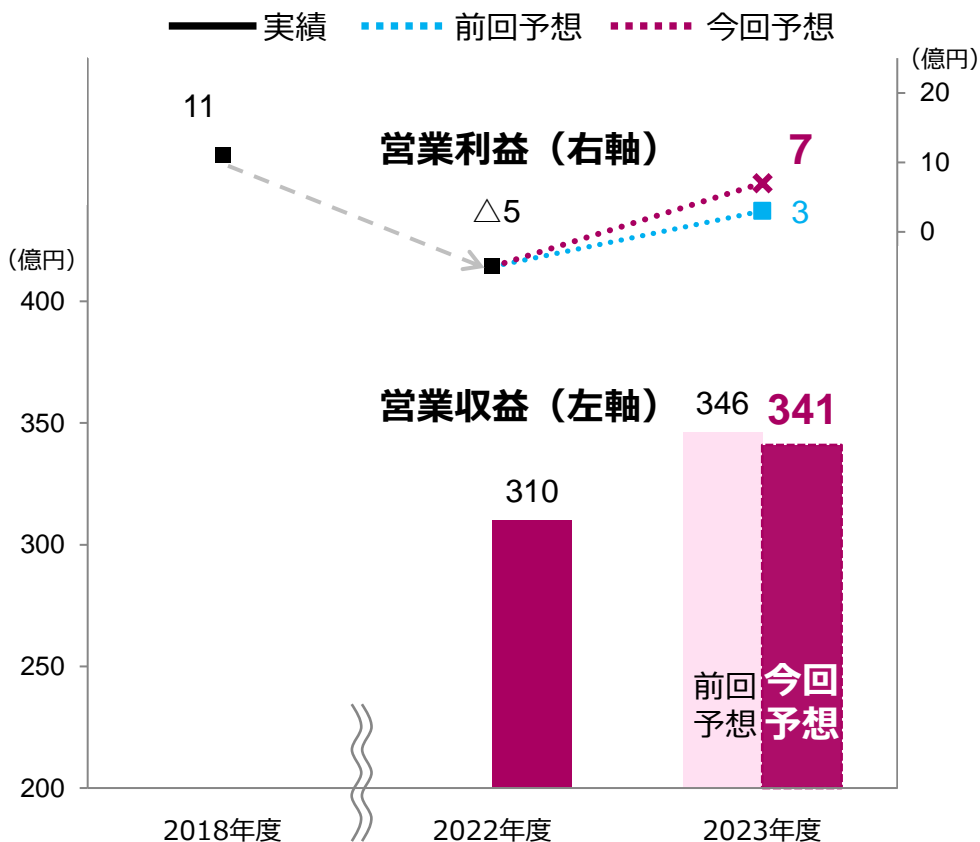


# 3. 主な事業の見通し

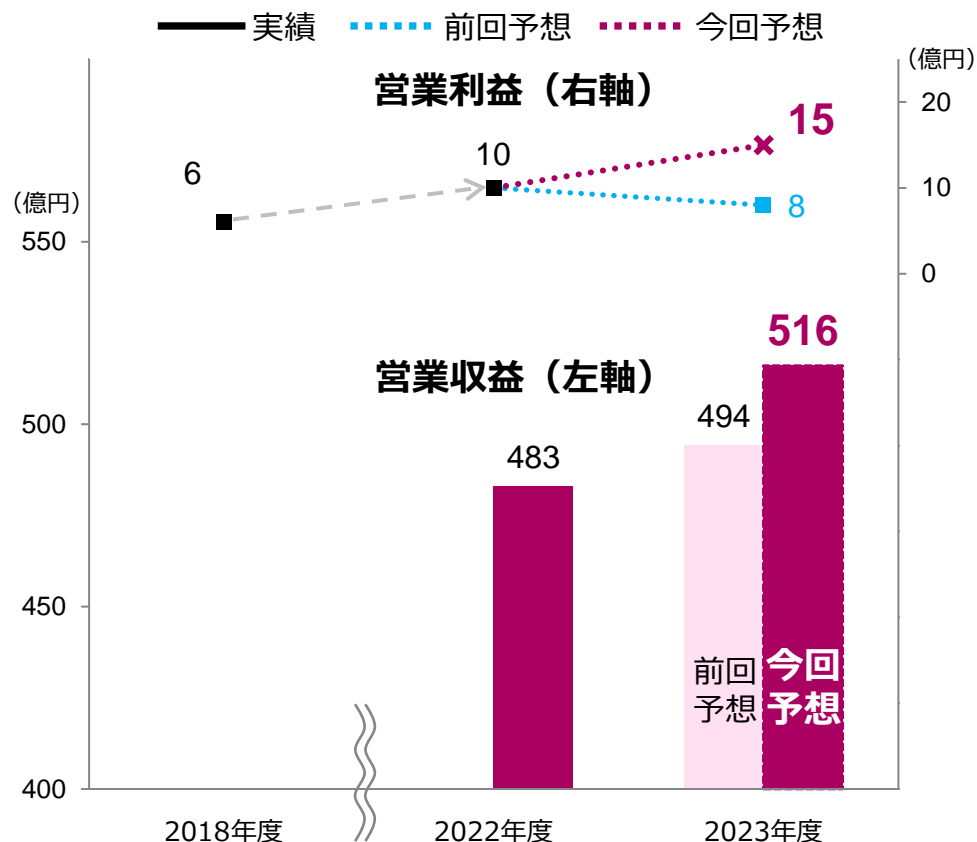
## 流通業

- 百貨店業は、水道光熱費等の経費の減少や食品フロアを中心とした新規顧客取り込みによる売上高増加により、前回予想比で増益を見込む
- ストア業は、客単価・客数の増加やコンビニ事業の好調な状況を踏まえ、前回予想比で増収増益を見込む

### 百貨店業



### ストア業



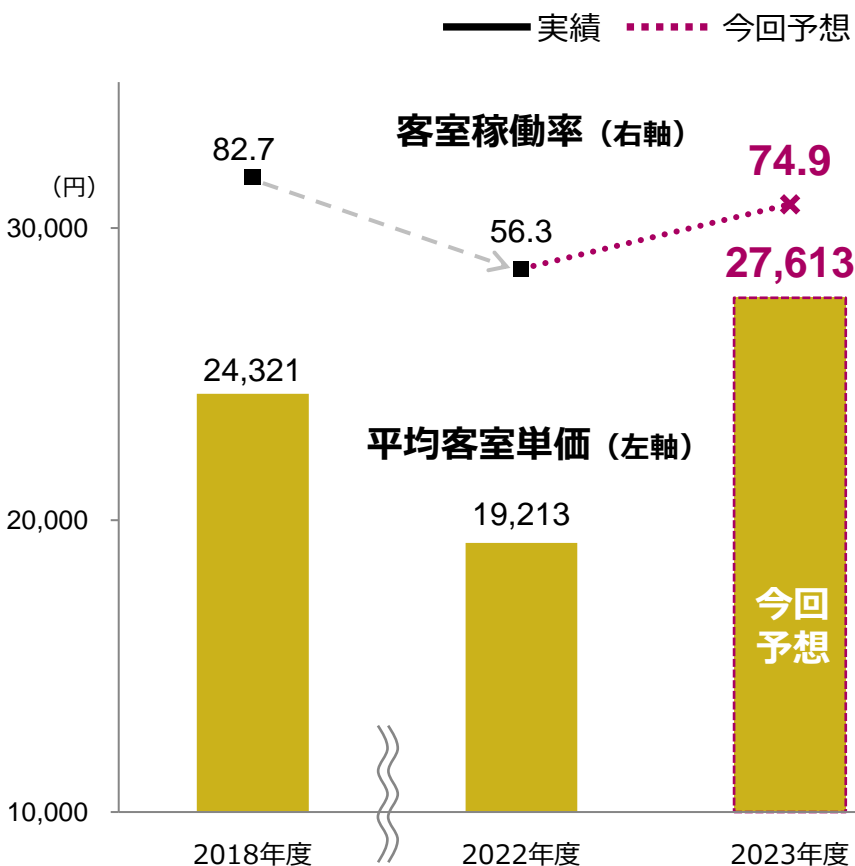
※2018年度営業収益は、「収益認識に関する会計基準」等適用前数値のため記載を省略

## 3. 主な事業の見通し

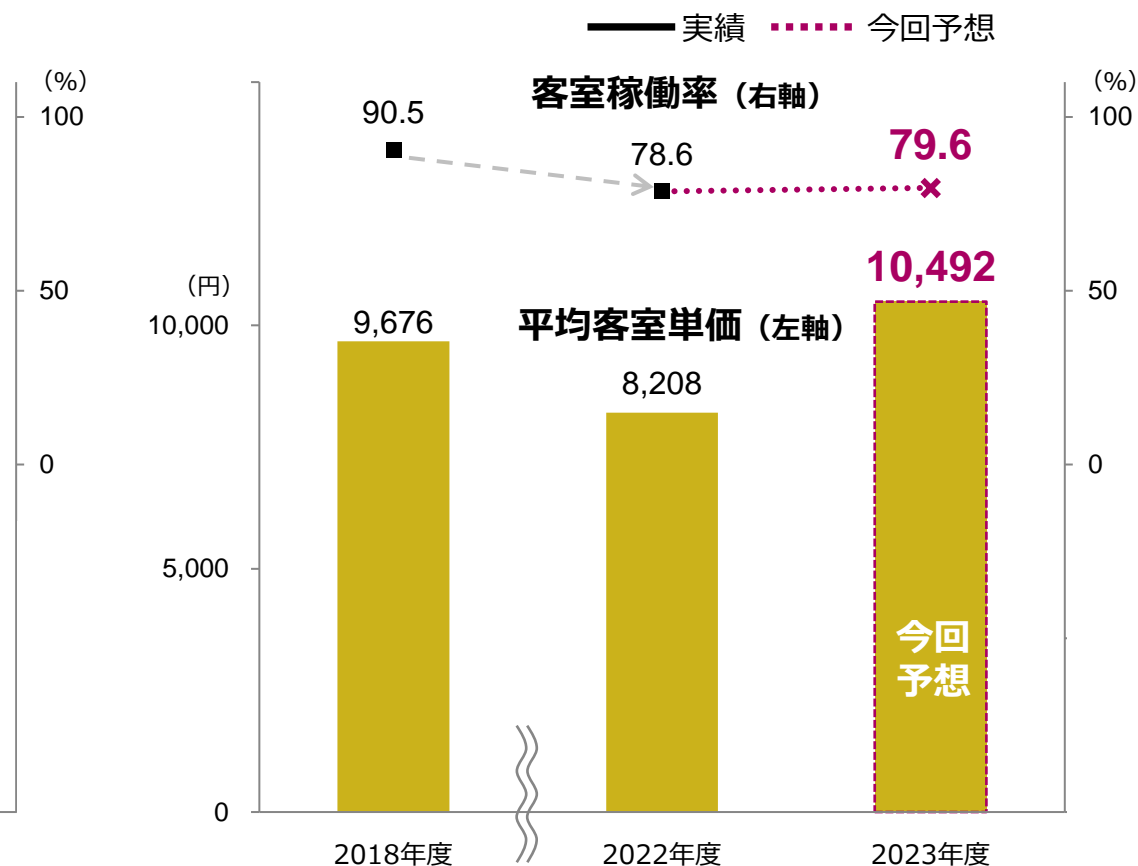
### レジャー・サービス業（ホテル業）

- レジャー需要や訪日外国人旅行者を中心とした宿泊需要の好調が継続
- 京王プラザホテル（新宿）や京王プレッソインの平均客室単価はコロナ禍以前を上回る水準を見込む

#### 京王プラザホテル（新宿）



#### 京王プレッソイン（全店舗）





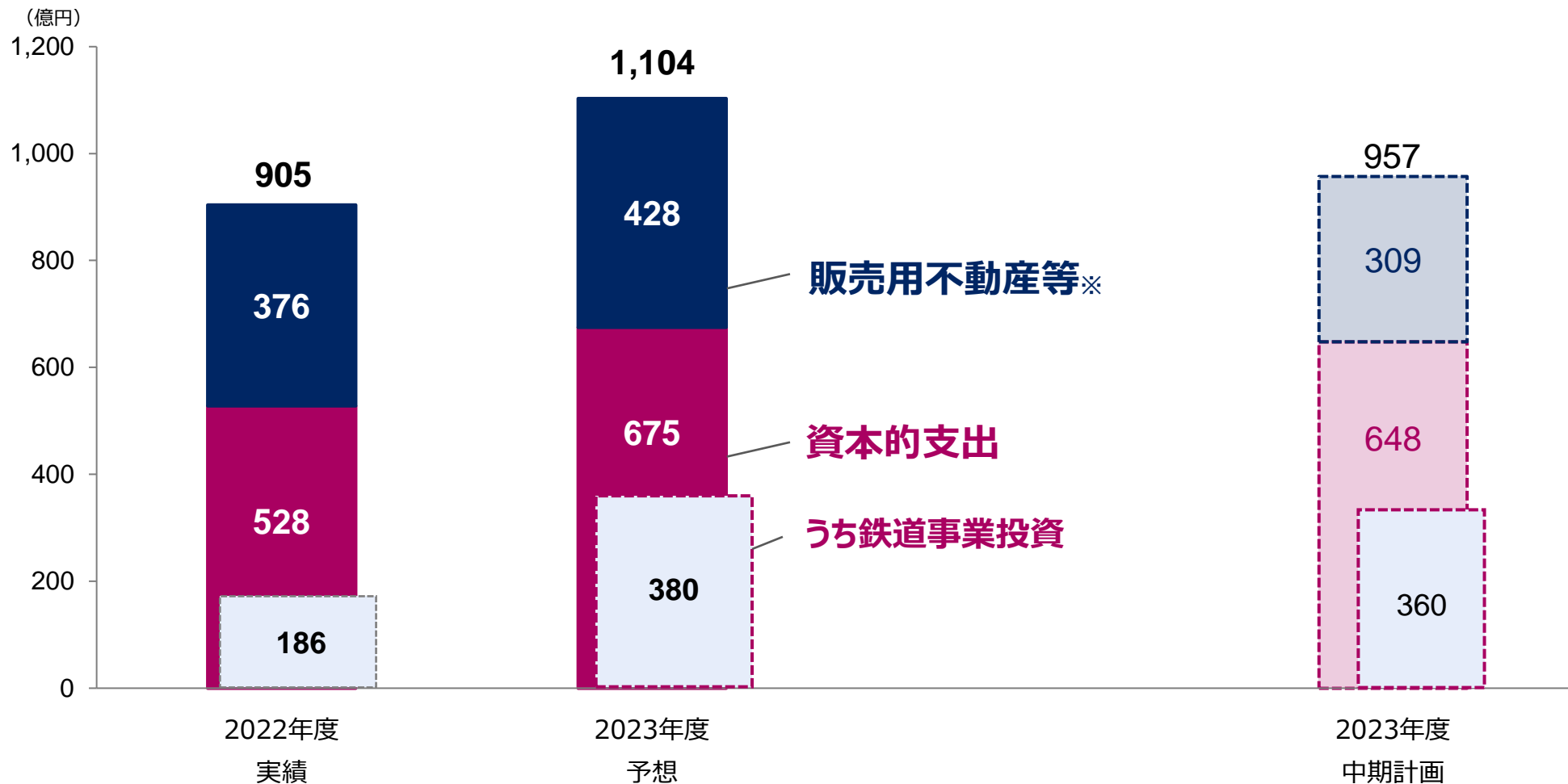
## 4. セグメント別予想

(単位：億円、%)

		2023年度通期の業績予想				
		2022年度 実績	2023年度 今回予想	前年増減 (増減率)	2023年度 前回予想 (2023.8.2公表ベース)	予想差異 (差異率)
営業 収益	運 輸 業	1,111	1,224	112 ( 10.1 )	1,209	14 ( 1.2 )
	流 通 業	1,028	1,094	66 ( 6.4 )	1,075	18 ( 1.7 )
	不 動 産 業	528	575	46 ( 8.9 )	527	48 ( 9.1 )
	レジャー・サービス業	527	695	168 ( 31.9 )	687	7 ( 1.1 )
	そ の 他 業	647	769	122 ( 18.9 )	785	△ 15 ( △ 2.0 )
	連 結 修 正	△ 371	△ 429	△ 57 ( — )	△ 405	△ 23 ( — )
	連 結	3,471	3,930	458 ( 13.2 )	3,880	50 ( 1.3 )
営業 利益	運 輸 業	39	115	76 ( 195.0 )	109	6 ( 6.0 )
	流 通 業	39	48	8 ( 22.7 )	35	12 ( 36.2 )
	不 動 産 業	120	105	△ 15 ( △ 12.4 )	104	1 ( 1.8 )
	レジャー・サービス業	△ 21	59	81 ( — )	50	9 ( 18.6 )
	そ の 他 業	44	44	△ 0 ( △ 0.2 )	44	— ( — )
	連 結 修 正	△ 7	△ 14	△ 6 ( — )	△ 13	△ 0 ( — )
	連 結	214	360	145 ( 67.6 )	330	30 ( 9.1 )

## 5. 投資の見通し

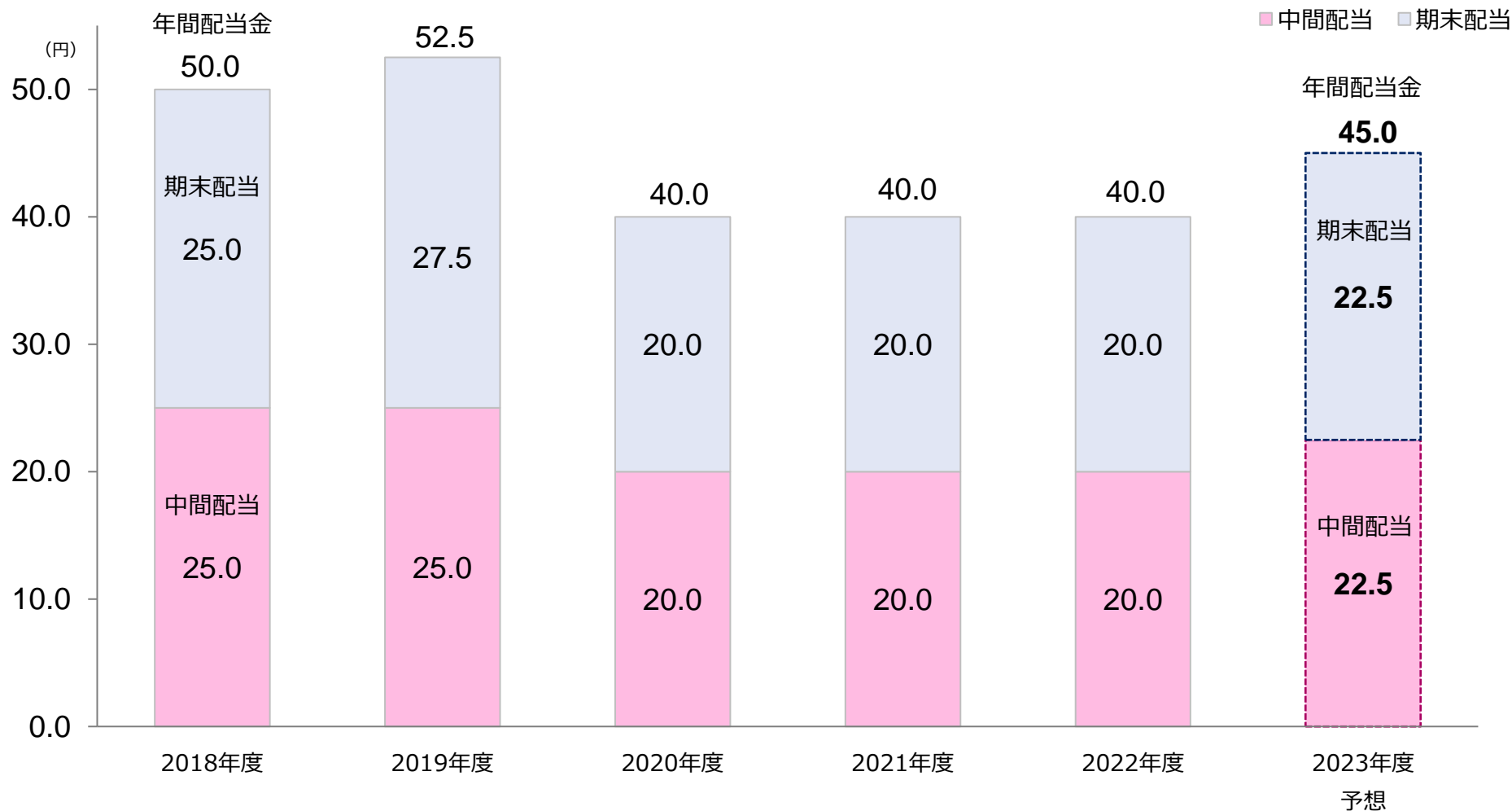
- 2023年度の投資の見通しについては当初計画を据え置き
- 安全・サービス向上に資する投資に加え、不動産販売業におけるバリューアップ投資や販売用不動産等の積極的な仕入れを継続



※販売用不動産等の金額は、投融資を含む

## 6. 配当の見通し

- 将来の事業展開と経営環境の変化に備えた経営基盤の強化に必要な内部留保を充実させながら、業績等を勘案し、株主の皆様への利益還元をはかっていくことを基本方針としている
- 2023年度の年間配当金については、1株につき5円増配の45.0円を予定



## IV. 参考資料（2023年度第2四半期実績）

1. 連結損益計算書
2. セグメント別の概況
3. セグメント情報（運輸業）
4. セグメント情報（流通業）
5. セグメント情報（不動産業）
6. セグメント情報（レジャー・サービス業）
7. セグメント情報（その他業）
8. 営業外・特別損益
9. 連結貸借対照表
10. 連結キャッシュ・フロー計算書

## 1. 連結損益計算書

（単位：億円、％）

	2023年度第2四半期の業績				
	2022年度 第2四半期 実績	2023年度 第2四半期 実績	前年増減（増減率）	2023年度 第2四半期 予想 <small>（2023.8.2公表ベース）</small>	予想差異（差異率）
営業収益	1,588	1,840	252（15.9）	1,803	37（2.1）
営業利益	94	239	144（153.9）	184	54（29.9）
経常利益	95	235	140（146.4）	176	59（33.7）
親会社株主に帰属する四半期純利益	42	172	129（305.3）	129	42（32.4）
EBITDA	236	383	146（62.0）	331	51（15.6）
減価償却費	142	143	1（0.9）	146	△3（△2.2）
資本的支出	177	116	△60（△34.4）	—	—（—）

※EBITDAは、営業利益＋減価償却費＋のれん償却額により算出している。

## 2. セグメント別の概況

- ホテル業が好調に推移するなど、すべてのセグメントで対前年増収
- 営業利益はすべてのセグメントで前年と比べて改善
- 対前回予想では、営業利益はすべてのセグメントで想定を上回る

(単位：億円、%)

		2023年度第2四半期の業績				
		2022年度 第2四半期 実績	2023年度 第2四半期 実績	前年増減 (増減率)	2023年度 第2四半期 予想 <small>(2023.8.2公表ベース)</small>	予想差異 (差異率)
営業 収益	運 輸 業	546	601	54 ( 10.1 )	587	13 ( 2.3 )
	流 通 業	480	528	47 ( 9.9 )	517	11 ( 2.1 )
	不 動 産 業	222	239	16 ( 7.5 )	251	△ 12 ( △ 5.0 )
	レジャー・サービス業	216	341	125 ( 58.0 )	327	14 ( 4.4 )
	そ の 他 業	253	268	15 ( 6.0 )	287	△ 18 ( △ 6.5 )
	連 結 修 正	△ 130	△ 138	△ 7 ( — )	△ 167	29 ( — )
	連 結	1,588	1,840	252 ( 15.9 )	1,803	37 ( 2.1 )
営業 利益	運 輸 業	46	88	42 ( 92.8 )	75	13 ( 17.7 )
	流 通 業	10	28	18 ( 172.6 )	17	11 ( 64.7 )
	不 動 産 業	57	65	7 ( 13.1 )	53	11 ( 21.9 )
	レジャー・サービス業	△ 31	44	76 ( — )	31	13 ( 43.2 )
	そ の 他 業	11	11	0 ( 1.0 )	6	4 ( 62.5 )
	連 結 修 正	△ 0	△ 0	△ 0 ( — )	△ 0	0 ( — )
	連 結	94	239	144 ( 153.9 )	184	54 ( 29.9 )

## 2. セグメント別の概況（四半期別）

（単位：億円）

	営業収益			営業利益		
	2023年度 第1四半期実績 (4~6月)	2023年度 第2四半期実績 (7~9月)	2023年度 第2四半期累計 (4~9月)	2023年度 第1四半期実績 (4~6月)	2023年度 第2四半期実績 (7~9月)	2023年度 第2四半期累計 (4~9月)
運 輸 業	298	302	601	46	42	88
流 通 業	268	260	528	17	11	28
不 動 産 業	113	125	239	31	34	65
レジャー・サービス業	159	181	341	20	24	44
そ の 他 業	113	154	268	3	7	11
連 結 修 正	△66	△71	△138	0	△0	△0
連 結	887	952	1,840	119	119	239

## 3. セグメント情報（運輸業）

- 鉄道事業では、前年同期と比べて輸送人員の回復が進み、旅客運輸収入が増収
- バス事業においても、路線・高速などで増収

(単位：億円、%)

	2023年度第2四半期の業績		
	2022年度 第2四半期 実績	2023年度 第2四半期 実績	前年増減（増減率）
営業収益	546	601	54 (10.1)
（鉄道事業）	349	378	28 (8.3)
（バス事業）	157	181	23 (15.2)
（タクシー業）	54	51	△2 (△4.9)
（その他）	11	12	0 (4.8)
（消去）	△26	△22	4 (—)
営業利益	46	88	42 (92.8)
（鉄道事業）	41	62	20 (49.4)
（バス事業）	2	25	22 (806.0)
E B I T D A	126	169	42 (34.1)
減価償却費	80	80	0 (0.3)
資本的支出	56	53	△2 (△5.1)



## 3. セグメント情報（運輸業）

## 鉄道事業運輸成績

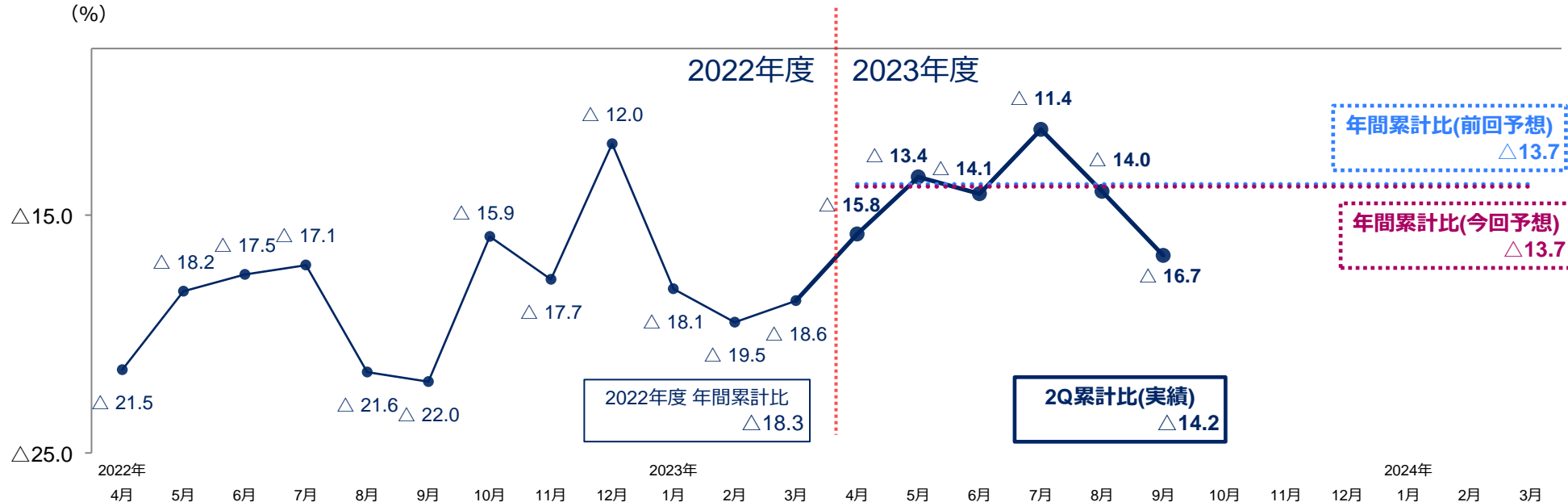
（単位：千人、百万円、％）

		2023年度第2四半期の業績		
		2022年度 第2四半期 実績	2023年度 第2四半期 実績	前年増減（増減率）
輸 送 人 員	定 期	156,780	163,522	6,742（ 4.3 ）
	（ 通 勤 ）	115,016	120,015	4,999（ 4.3 ）
	（ 通 学 ）	41,764	43,507	1,743（ 4.2 ）
	定 期 外	118,808	130,530	11,722（ 9.9 ）
	合 計	275,588	294,052	18,464（ 6.7 ）
旅 客 運 輸 収 入	定 期	13,260	13,831	571（ 4.3 ）
	（ 通 勤 ）	11,712	12,228	516（ 4.4 ）
	（ 通 学 ）	1,548	1,603	54（ 3.5 ）
	定 期 外	19,718	21,805	2,086（ 10.6 ）
	合 計	32,979	35,637	2,657（ 8.1 ）

## 3. セグメント情報（運輸業）

## 鉄道事業 輸送人員合計 対2018年度同月比の推移

（％）



## 2023年度 鉄道輸送人員（対2018年度比）

（単位：％）

（参考）

	4月	5月	6月	1Q累計	7月	8月	9月	2Q累計	2022年度 通期
定期計	△23.1	△19.3	△19.7	△20.7	△17.2	△20.3	△24.1	△20.6	△23.4
通勤	△23.1	△23.5	△23.4	△23.4	△21.4	△22.4	△22.7	△22.8	△26.1
通学	△22.9	△7.2	△9.2	△13.1	△3.7	△11.7	△27.9	△14.0	△14.7
定期外	△5.2	△4.5	△5.2	△4.9	△2.6	△5.3	△5.4	△4.7	△10.8
合計	△15.8	△13.4	△14.1	△14.4	△11.4	△14.0	△16.7	△14.2	△18.3

## 4. セグメント情報（流通業）

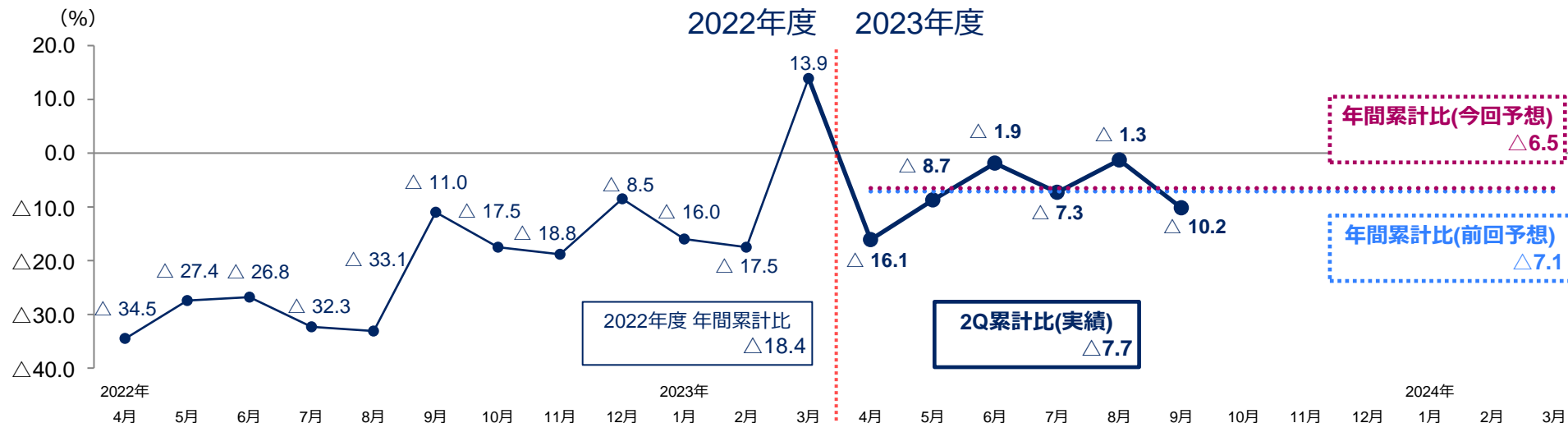
- 百貨店業では、前年同期と比べて人流の回復が進み、増収
- ストア業では、スーパーマーケット事業およびコンビニ事業が好調に推移し、増収

(単位：億円、%)

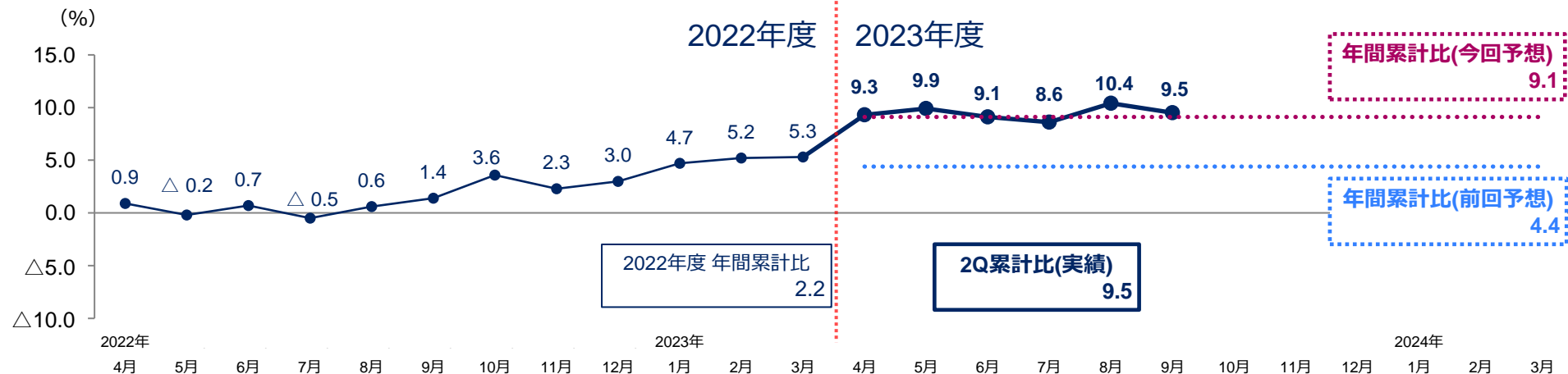
	2023年度第2四半期の業績		
	2022年度 第2四半期 実績	2023年度 第2四半期 実績	前年増減（増減率）
営業収益	480	528	47 ( 9.9 )
（百貨店業）	131	155	23 ( 18.1 )
（ストア業）	235	256	20 ( 8.8 )
（ショッピングセンター事業）	73	75	1 ( 2.5 )
（その他）	68	70	1 ( 1.8 )
（消去）	△ 29	△ 28	0 ( — )
営業利益	10	28	18 ( 172.6 )
（百貨店業）	△ 12	△ 0	12 ( — )
（ストア業）	6	10	4 ( 70.9 )
（ショッピングセンター事業）	19	19	0 ( 1.0 )
E B I T D A	27	48	20 ( 72.9 )
減価償却費	17	19	2 ( 12.1 )
資本的支出	38	7	△ 31 ( △ 79.7 )

## 4. セグメント情報 (流通業)

百貨店業 新宿店売上高 対2018年度同月比の推移 (「収益認識に関する会計基準」等適用前に換算)



ストア業 売上高 対2018年度同月比の推移 (「収益認識に関する会計基準」等適用前に換算)



## 5. セグメント情報（不動産業）

- 不動産賃貸業では、前年同期並みに推移
- 不動産販売業では、リノベーション物件の売上増などにより増収

(単位：億円、%)

	2023年度第2四半期の業績		
	2022年度 第2四半期 実績	2023年度 第2四半期 実績	前年増減（増減率）
営業収益	222	239	16（7.5）
（不動産賃貸業）	187	193	5（3.1）
（不動産販売業）	71	77	5（8.0）
（その他）	14	22	7（51.8）
（消去）	△51	△54	△2（—）
営業利益	57	65	7（13.1）
（不動産賃貸業）	53	53	△0（△0.2）
（不動産販売業）	6	7	1（22.1）
E B I T D A	81	88	7（9.3）
減価償却費	23	23	△0（△0.1）
資本的支出	53	19	△34（△63.5）

## 6. セグメント情報（レジャー・サービス業）

- ホテル業では、訪日外国人旅行客の宿泊需要の取り込みなどにより、「京王プラザホテル（新宿）」や「京王プレッソイン」などの客室単価が、コロナ禍以前を上回る水準まで大きく回復し増収

（単位：億円、％）

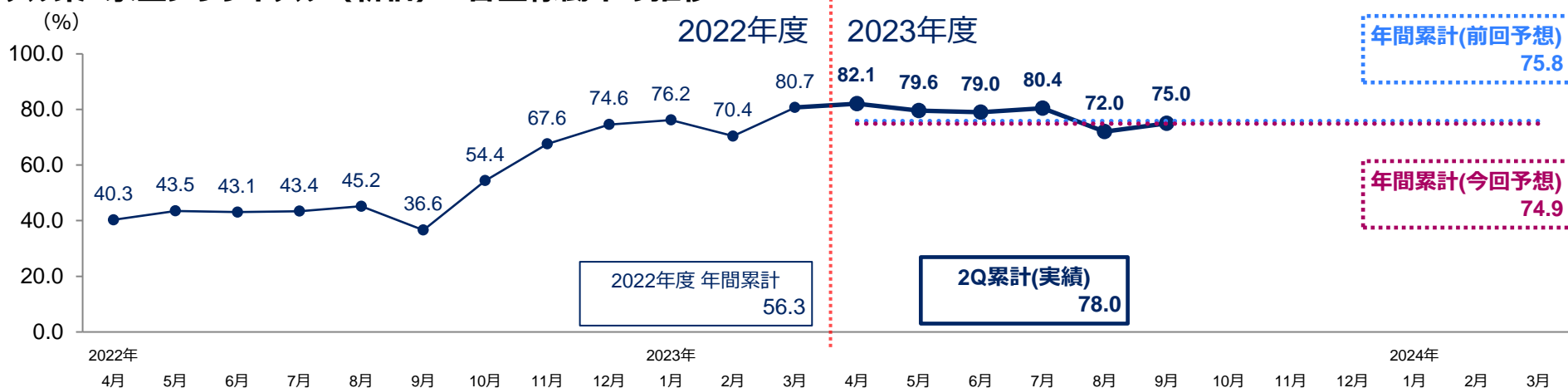
	2023年度第2四半期の業績		
	2022年度 第2四半期 実績	2023年度 第2四半期 実績	前年増減（増減率）
営業収益	216	341	125（58.0）
（ホテル業）	164	264	99（60.5）
（旅行業）	37	51	14（38.2）
（広告代理業）	30	34	4（13.4）
（その他）	28	31	2（7.3）
（消去）	△45	△40	5（—）
営業利益	△31	44	76（—）
（ホテル業）	△25	46	71（—）
E B I T D A	△10	64	75（—）
減価償却費	20	19	△1（△5.0）
資本的支出	8	7	△1（△15.4）

## 6. セグメント情報 (レジャー・サービス業)

ホテル業 京王プラザホテル (新宿) 売上高 対2018年度同月比の推移



ホテル業 京王プラザホテル (新宿) 客室稼働率の推移



## 7. セグメント情報（その他業）

■ 車両整備業では、受注増などにより増収

（単位：億円、%）

	2023年度第2四半期の業績		
	2022年度 第2四半期 実績	2023年度 第2四半期 実績	前年増減（増減率）
営業収益	253	268	15（6.0）
（ビル総合管理業）	109	111	1（1.7）
（車両整備業）	27	37	9（34.5）
（建築・土木業）	79	80	1（2.3）
（その他）	45	47	1（3.3）
（消去）	△8	△7	0（—）
営業利益	11	11	0（1.0）
（ビル総合管理業）	7	6	△0（△3.8）
（車両整備業）	1	3	2（195.0）
（建築・土木業）	2	0	△2（△95.7）
E B I T D A	13	14	0（4.2）
減価償却費	2	2	0（2.1）
資本的支出	1	6	4（317.7）



## 8. 営業外・特別損益

（単位：億円）

	2022年度 第2四半期 実績	2023年度 第2四半期 実績	増減	増減要因
営業収益	1,588	1,840	252	
営業利益	94	239	144	
営業外収益	18	13	△4	助成金等収入△8億円
営業外費用	16	16	△0	
経常利益	95	235	140	
特別利益	6	2	△4	工事負担金等受入額△3億円
特別損失	9	3	△6	固定資産圧縮損△3億円
法人税等	50	62	12	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	42	172	129	

## 9. 連結貸借対照表

- 総資産は、販売用不動産の取得による棚卸資産の増加や有形固定資産の増加などにより増加
- 負債は、借入金の増加や資産除去債務の計上などにより増加
- 純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上などにより増加

（単位：億円）

	2022年度 実績	2023年度 第2四半期 実績	増 減	増減要因
流 動 資 産	1,828	1,964	135	現金及び預金+82億円、商品及び製品+64億円、仕掛品+45億円
固 定 資 産	7,723	7,911	188	投資有価証券+121億円、有形固定資産+86億円
<b>総 資 産</b>	<b>9,552</b>	<b>9,875</b>	<b>323</b>	
流 動 負 債	2,194	2,131	△62	
固 定 負 債	3,842	3,973	131	資産除去債務+107億円、長期借入金+46億円
<b>負 債</b>	<b>6,036</b>	<b>6,105</b>	<b>68</b>	
<b>純 資 産</b>	<b>3,515</b>	<b>3,770</b>	<b>255</b>	利益剰余金+147億円、その他有価証券評価差額金+82億円
<b>負債及び純資産</b>	<b>9,552</b>	<b>9,875</b>	<b>323</b>	

有 利 子 負 債	4,026	4,093	67
自 己 資 本 比 率	36.8%	38.2%	1.4P

（注）有利子負債は、借入金＋社債により算出している。

## 10. 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)

	2022年度 第2四半期 実績	2023年度 第2四半期 実績	増減	備考
営業活動 キャッシュ・フロー	165	308	143	税金等調整前四半期純利益+235億円 減価償却費+143億円
投資活動 キャッシュ・フロー	△226	△258	△32	有形及び無形固定資産の取得による支出△297億円
フリーキャッシュ・フロー (営業CF+投資CF)	△61	49	110	
財務活動 キャッシュ・フロー	66	32	△33	長期借入れによる収入+100億円
現金及び 現金同等物の 期末残高	678	792	113	

## IV. 参考資料（2023年度通期の業績予想）

1. 連結損益計算書
2. セグメント別の概況
3. セグメント情報（運輸業）
4. セグメント情報（流通業）
5. セグメント情報（不動産業）
6. セグメント情報（レジャー・サービス業）
7. セグメント情報（その他業）

## IV. 参考資料（2023年度通期の業績予想）

### 1. 連結損益計算書

- 訪日外国人旅行客の増加や国内需要の回復により、運輸業、流通業、レジャー・サービス業が想定以上に好調に推移
- 固定資産除却損の増加などにより、親会社株主に帰属する当期純利益は前回公表値と同額を見込む

（単位：億円、％）

	2023年度通期の業績予想				
	2022年度 実績	2023年度 今回予想	前年増減（増減率）	2023年度 前回予想 <small>（2023.8.2公表ベース）</small>	予想差異（差異率）
営業収益	3,471	3,930	458（ 13.2）	3,880	50（ 1.3）
営業利益	214	360	145（ 67.6）	330	30（ 9.1）
経常利益	217	352	134（ 61.7）	317	35（ 11.0）
親会社株主に帰属する当期純利益	131	252	120（ 92.2）	252	—（ —）
E B I T D A	506	669	163（ 32.3）	644	25（ 3.9）
減価償却費	291	308	17（ 5.9）	313	△4（ △1.5）
資本的支出	528	675	147（ 27.8）	675	—（ —）

## 1. 連結損益計算書（下期予想）

（単位：億円）

	2023年度 上期実績 (4~9月)	2023年度 下期予想 (10~3月)	2023年度 通期予想 (4~3月)
営 業 収 益	1,840	2,089	3,930
営 業 利 益	239	120	360
経 常 利 益	235	116	352
親会社株主に帰属する当期純利益	172	79	252
E B I T D A	383	286	669
減 価 償 却 費	143	164	308

## 2. セグメント別の概況

（単位：億円、％）

		2023年度通期の業績予想				
		2022年度 実績	2023年度 今回予想	前年増減（増減率）	2023年度 前回予想 <small>（2023.8.2公表ベース）</small>	予想差異（差異率）
営業 収益	運 輸 業	1,111	1,224	112（ 10.1）	1,209	14（ 1.2）
	流 通 業	1,028	1,094	66（ 6.4）	1,075	18（ 1.7）
	不 動 産 業	528	575	46（ 8.9）	527	48（ 9.1）
	レジャー・サービス業	527	695	168（ 31.9）	687	7（ 1.1）
	そ の 他 業	647	769	122（ 18.9）	785	△ 15（ △ 2.0）
	連 結 修 正	△ 371	△ 429	△ 57（ — ）	△ 405	△ 23（ — ）
	連 結	3,471	3,930	458（ 13.2）	3,880	50（ 1.3）
営業 利益	運 輸 業	39	115	76（ 195.0）	109	6（ 6.0）
	流 通 業	39	48	8（ 22.7）	35	12（ 36.2）
	不 動 産 業	120	105	△ 15（ △ 12.4）	104	1（ 1.8）
	レジャー・サービス業	△ 21	59	81（ — ）	50	9（ 18.6）
	そ の 他 業	44	44	△ 0（ △ 0.2）	44	—（ — ）
	連 結 修 正	△ 7	△ 14	△ 6（ — ）	△ 13	△ 0（ — ）
	連 結	214	360	145（ 67.6）	330	30（ 9.1）

## 2. セグメント別の概況（下期予想）

（単位：億円）

	営業収益			営業利益		
	2023年度 上期実績 (4～9月)	2023年度 下期予想 (10～3月)	2023年度 通期予想 (4～3月)	2023年度 上期実績 (4～9月)	2023年度 下期予想 (10～3月)	2023年度 通期予想 (4～3月)
運 輸 業	601	623	1,224	88	27	115
流 通 業	528	566	1,094	28	19	48
不 動 産 業	239	335	575	65	40	105
レジャー・サービス業	341	354	695	44	14	59
そ の 他 業	268	501	769	11	33	44
連 結 修 正	△ 138	△ 291	△ 429	△ 0	△ 14	△ 14
連 結	1,840	2,089	3,930	239	120	360



## 3. セグメント情報（運輸業）

（単位：億円、％）

	2023年度通期の業績予想				
	2022年度 実績	2023年度 今回予想	前年増減（増減率）	2023年度 前回予想 <small>（2023.8.2公表ベース）</small>	予想差異（差異率）
営業収益	1,111	1,224	112（ 10.1）	1,209	14（ 1.2）
（鉄道事業）	710	790	79（ 11.2）	788	2（ 0.3）
（バス事業）	317	350	32（ 10.4）	337	13（ 4.0）
（タクシ業）	106	102	△ 3（ △ 3.3）	103	△ 1（ △ 1.0）
（その他）	24	25	1（ 5.1）	24	0（ 1.9）
（消去）	△ 47	△ 45	1（ — ）	△ 45	△ 0（ — ）
営業利益	39	115	76（ 195.0）	109	6（ 6.0）
（鉄道事業）	29	88	59（ 203.4）	85	2（ 2.7）
（バス事業）	6	22	16（ 258.2）	15	7（ 49.4）
E B I T D A	203	287	83（ 41.0）	281	5（ 2.0）
減価償却費	164	171	6（ 4.2）	172	△ 0（ △ 0.5）
資本的支出	246	412	166（ 67.3）	412	—（ — ）

## 3. セグメント情報（運輸業）

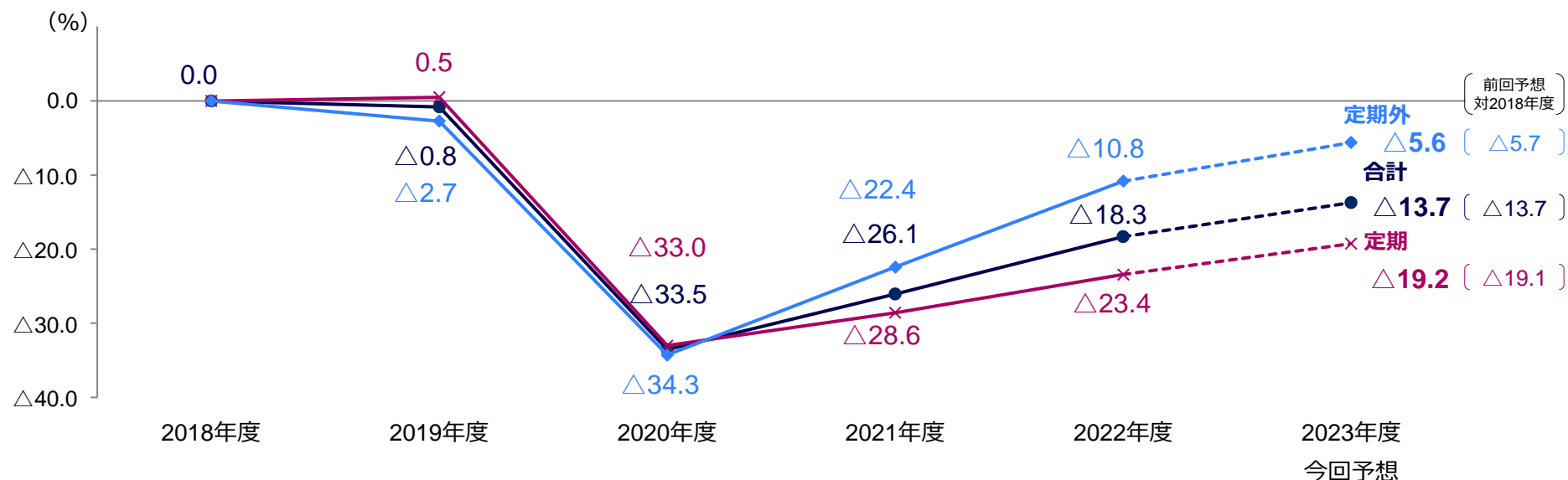
## 鉄道事業運輸成績

（単位：千人、百万円、％）

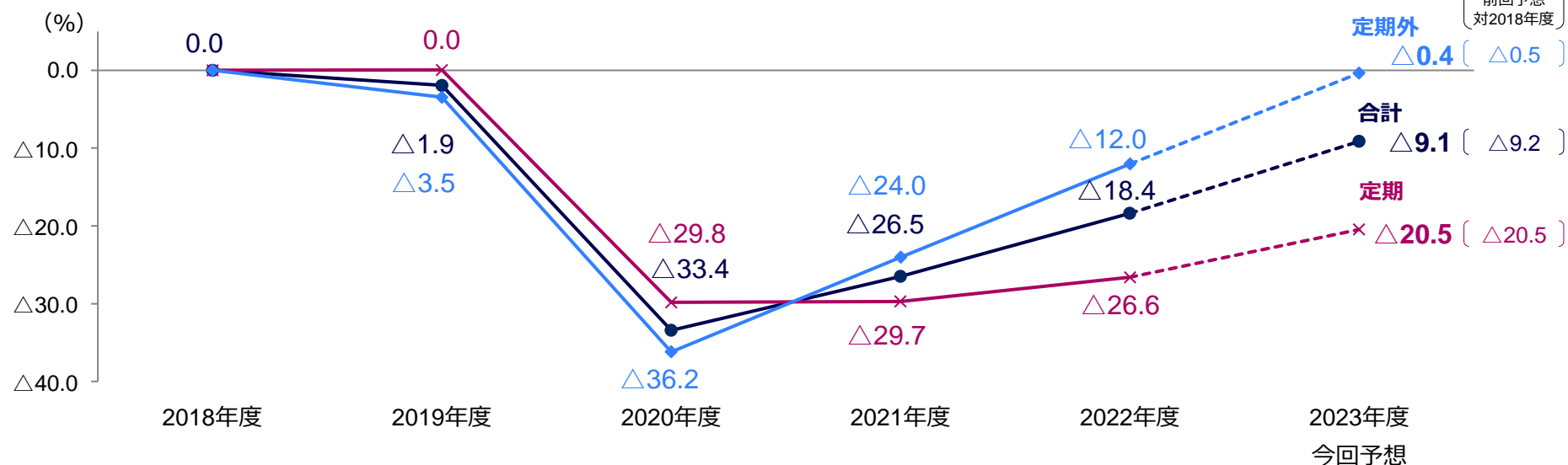
		2023年度通期の業績予想				
		2022年度 実績	2023年度 今回予想	前年増減（増減率）	2023年度 前回予想 <small>（2023.8.2公表ベース）</small>	予想差異（差異率）
輸 送 人 員	定 期	308,409	325,212	16,803（ 5.4 ）	325,709	△ 497（ △ 0.2 ）
	（ 通 勤 ）	228,617	237,399	8,782（ 3.8 ）	237,128	271（ 0.1 ）
	（ 通 学 ）	79,792	87,813	8,021（ 10.1 ）	88,581	△ 768（ △ 0.9 ）
	定 期 外	245,480	259,851	14,371（ 5.9 ）	259,508	343（ 0.1 ）
	合 計	553,889	585,063	31,174（ 5.6 ）	585,217	△ 154（ △ 0.0 ）
旅 客 運 輸 収 入	定 期	26,311	28,509	2,198（ 8.4 ）	28,505	3（ 0.0 ）
	（ 通 勤 ）	23,352	25,249	1,896（ 8.1 ）	25,221	28（ 0.1 ）
	（ 通 学 ）	2,958	3,260	301（ 10.2 ）	3,284	△ 24（ △ 0.7 ）
	定 期 外	40,819	46,229	5,409（ 13.3 ）	46,167	61（ 0.1 ）
	合 計	67,130	74,738	7,608（ 11.3 ）	74,673	65（ 0.1 ）

## 3. セグメント情報（運輸業）

鉄道事業 輸送人員 対2018年度増減率



鉄道事業 旅客運輸収入 対2018年度増減率



## 4. セグメント情報（流通業）

（単位：億円、％）

	2023年度通期の業績予想				
	2022年度 実績	2023年度 今回予想	前年増減（増減率）	2023年度 前回予想 <small>（2023.8.2公表ベース）</small>	予想差異（差異率）
営業収益	1,028	1,094	66（6.4）	1,075	18（1.7）
（百貨店業）	310	341	30（9.8）	346	△4（△1.4）
（ストア業）	483	516	33（6.9）	494	22（4.6）
（ショッピングセンター事業）	148	148	△0（△0.2）	146	1（1.1）
（その他）	143	146	2（1.6）	147	△1（△1.2）
（消去）	△58	△58	0（—）	△58	0（—）
営業利益	39	48	8（22.7）	35	12（36.2）
（百貨店業）	△5	7	12（—）	3	4（133.3）
（ストア業）	10	15	4（38.2）	8	6（76.5）
（ショッピングセンター事業）	38	28	△9（△25.1）	25	3（12.2）
E B I T D A	75	94	19（26.3）	84	9（11.7）
減価償却費	35	46	10（30.1）	49	△2（△5.8）
資本的支出	57	44	△13（△22.8）	44	—（—）

## 5. セグメント情報（不動産業）

（単位：億円、％）

	2023年度通期の業績予想				
	2022年度 実績	2023年度 今回予想	前年増減（増減率）	2023年度 前回予想 <small>（2023.8.2公表ベース）</small>	予想差異（差異率）
営業収益	528	575	46（ 8.9）	527	48（ 9.1）
（不動産賃貸業）	375	396	20（ 5.6）	384	11（ 3.0）
（不動産販売業）	219	259	40（ 18.6）	244	15（ 6.4）
（その他）	35	41	6（ 17.0）	37	4（ 11.8）
（消去）	△ 101	△ 122	△ 20（ — ）	△ 138	16（ — ）
営業利益	120	105	△ 15（ △ 12.4）	104	1（ 1.8）
（不動産賃貸業）	97	84	△ 13（ △ 13.9）	88	△ 3（ △ 4.5）
（不動産販売業）	25	16	△ 8（ △ 34.0）	10	6（ 63.0）
E B I T D A	168	154	△ 13（ △ 8.3）	153	0（ 0.4）
減価償却費	47	48	1（ 2.3）	49	△ 1（ △ 2.5）
資本的支出	197	130	△ 66（ △ 33.7）	130	—（ — ）

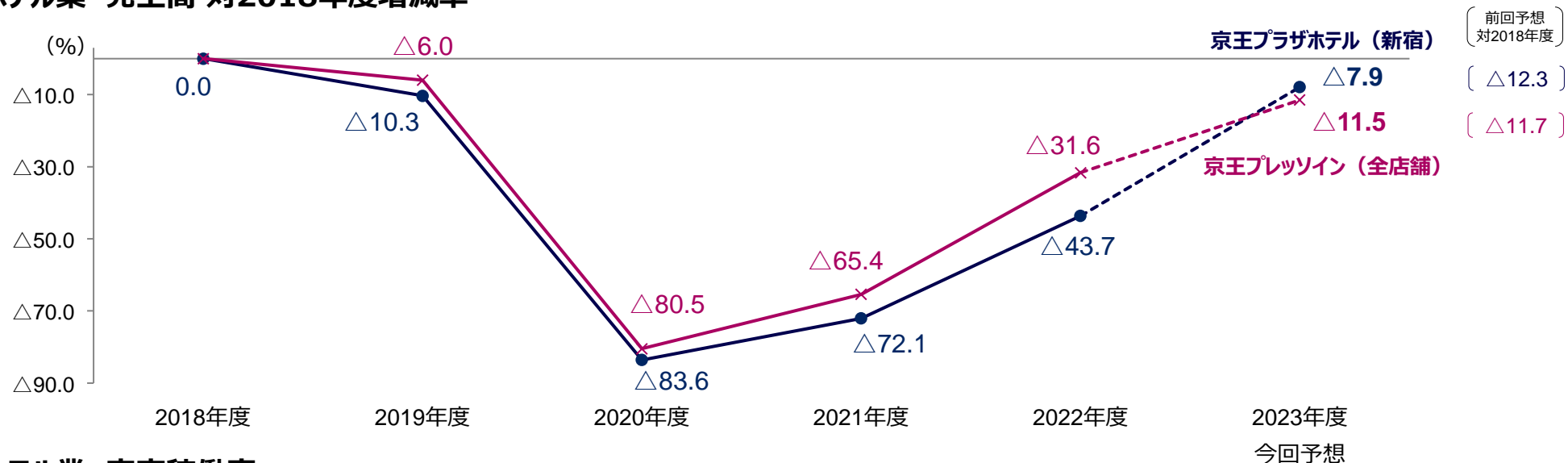
## 6. セグメント情報（レジャー・サービス業）

（単位：億円、%）

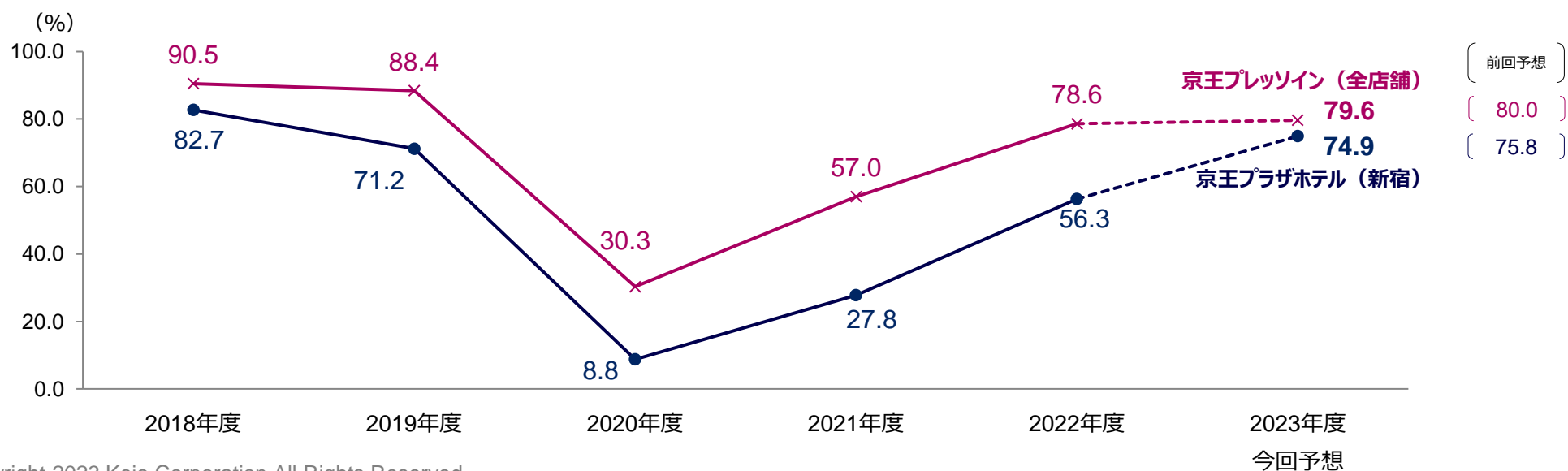
	2023年度通期の業績予想				
	2022年度 実績	2023年度 今回予想	前年増減（増減率）	2023年度 前回予想 <small>（2023.8.2公表ベース）</small>	予想差異（差異率）
営業収益	527	695	168（31.9）	687	7（1.1）
（ホテル業）	394	526	132（33.5）	503	22（4.4）
（旅行業）	78	108	29（37.9）	112	△4（△4.1）
（広告代理業）	80	84	3（4.9）	99	△14（△15.0）
（その他）	58	61	3（5.3）	60	0（1.5）
（消去）	△83	△84	△0（—）	△88	4（—）
営業利益	△21	59	81（—）	50	9（18.6）
（ホテル業）	△15	55	70（—）	38	17（44.7）
E B I T D A	20	99	79（390.6）	90	9（10.3）
減価償却費	42	40	△2（△4.8）	40	△0（△0.1）
資本的支出	26	70	43（163.9）	70	—（—）

## 6. セグメント情報（レジャー・サービス業）

## ホテル業 売上高 対2018年度増減率



## ホテル業 客室稼働率



## 7. セグメント情報（その他業）

（単位：億円、％）

	2023年度通期の業績予想				
	2022年度 実績	2023年度 今回予想	前年増減（増減率）	2023年度 前回予想 <small>（2023.8.2公表ベース）</small>	予想差異（差異率）
営業収益	647	769	122（ 18.9）	785	△ 15（ △ 2.0）
（ビル総合管理業）	263	271	7（ 3.0）	260	11（ 4.3）
（車両整備業）	76	90	14（ 18.6）	93	△ 2（ △ 2.7）
（建築・土木業）	235	332	97（ 41.1）	364	△ 31（ △ 8.7）
（その他）	94	98	4（ 5.1）	98	0（ 0.8）
（消去）	△ 23	△ 24	△ 1（ — ）	△ 30	6（ — ）
営業利益	44	44	△ 0（ △ 0.2）	44	—（ — ）
（ビル総合管理業）	22	22	△ 0（ △ 0.3）	18	3（ 19.3）
（車両整備業）	7	8	1（ 19.6）	8	△ 0（ △ 3.2）
（建築・土木業）	15	15	0（ 0.5）	16	△ 1（ △ 6.6）
E B I T D A	49	50	1（ 3.1）	50	0（ 0.4）
減価償却費	4	5	0（ 9.1）	4	0（ 4.7）
資本的支出	3	25	21（ 616.9）	25	—（ — ）



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。